

平成30年版
森林総合研究所北海道支所
年 報

Annual Report 2018



国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所北海道支所
Hokkaido Research Center
Forestry and Forest Products Research Institute

平成 30 年版森林総合研究所北海道支所年報

目 次

はじめに	1
I. 森林総合研究所研究課題一覧	2
II. 鳥類標識調査結果	6
III. 広報活動	20
IV. 研究業績	23
V. 資料	
1. 会議	45
2. 諸行事	46
3. その他の諸会議	46
4. 職員の研修・講習	47
5. 受託出張	48
6. 外国出張	52
7. 研修生の受入	53
8. 来訪者	54
9. 広報活動	55
10. 図書の収集・利用	56
11. 固定試験地・収穫試験地	57
12. 羊ヶ丘実験林の試験林一覧	58
13. 羊ヶ丘の気象	59
VI. 総務	
1. 沿革	62
2. 土地・施設	63
3. 組織	64
4. 職員の異動	65
5. 職員名簿	66
6. 事業予算額	67

はじめに

平成 30 年北海道支所は創立 110 周年を迎えました。「北海道の森林をどう保全し、どう持続的に利用していくか」は創立当初より現在まで続く北海道支所の大きな課題です。北海道支所の多くの先輩研究者が、この課題に取り組み、成果を上げてきたことで、今回 110 周年に至ることができました。現役そして未来の若手研究者は、これまでの研究成果を参考にしつつ、新しい技術を取り入れながら更なる課題解決に向けて研究に取り組んでいきたいと思っています。

一方で、平成 30 年は台風・地震など天災の多い年でした。今年上陸した台風は 5 個と多く、日本各地に豪雨災害をもたらしました。25 年振りに非常に強い勢力で上陸した台風 21 号は 9 月 5 日未明に支所を通過し、実験林・樹木園の木を多くなぎ倒し、また、フラックス観測用タワーを傾かすなど大きな被害を与えていきました。翌日 9 月 6 日未明には北海道胆振東部大地震が発生しました。厚真町の森林が広域にわたって地すべりにより倒壊した姿をニュースなどでご覧になった方も多かったのではないのでしょうか？また、地震の影響で北海道中の電気が切れるというブラックアウトが起きました。支所でも、重油タンク周辺の地盤沈下、環境調整棟の水漏れ、乾燥機の故障などの被害が出ました。

近年頻発する豪雨災害・台風被害は気候変動とも密接に関係があるといわれています。二酸化炭素吸収源となる森林の着実な育成は気象害の発生を抑えるのに有効な手段となります。また、これからの森づくりには「災害に強い」という視点も必要になってくるでしょう。先ほど述べた伝統的な課題に加え、新たに生じてくる課題にも目を向けながら、今後の研究を進めてまいります。

この年報には、北海道支所で 30 年度に行ってきた活動の概要が記されています。

各研究についてはタイトルしか掲載しておりませんが、支所の広報誌「北の森だより」、森林総合研究所年報、研究成果選集のほか、森林総合研究所ホームページ上で研究成果が掲載されています。ご興味のある方は支所及び森林総合研究所のホームページをご覧ください。

毎年羊ヶ丘の気象及び鳥類標識調査の結果を資料として掲載しております。長期にわたる変動を把握するための貴重なデータとなっております。併せて、ご参照ください。

また、研究成果の最大化に向けて、国や道、市町村の行政機関や道総研・大学・森林組合・企業・NPO 法人・市民の方と連携を進めています。今後ともよろしく願いいたします。

北海道支所長 河原孝行

I . 平成29年度研究課題一覧

新課題番号	旧課題番号	課題名		研究期間	責任者(主査) 北海道支所以外の者 は所属を括弧書き	支所担当者	予算区分	代表/分担	受託相手方	事業・プロジェクト名
A		重点課題	森林の多面的機能の高度発揮に向けた森林管理技術の開発	28 ～ 32	田中 浩					
A7		戦略課題	森林生態系を活用した治山技術の高度化と防災・減災技術の開発	28 ～ 32	大丸 裕武					
A7b		基幹課題	森林の水涵(かん)養機能を高度に発揮させる技術の開発	28 ～ 32	玉井 幸治					
A7b1		実施課題	多様な管理手法下にある森林の水保全機能評価技術の開発	28 ～ 32	小林 政広	延廣 竜彦	交付金		-	-
A7o		基幹課題	森林気象害リスク評価手法の開発	28 ～ 32	後藤 義明					
A7oPS2	F2P13	所内委託課題	森林気象害のリスク評価手法に関する研究	27 ～ 31	後藤 義明	山野井克己	所内委託(森林保険勘定)	代表	森林総合研究所 森林保険センター	所内委託プロジェクト
アイ		戦略課題	気候変動の影響評価技術の高度化と適応・緩和技術の開発	28 ～ 32	平田 泰雅					
アイa		基幹課題	長期観測による森林・林業への気候変動影響評価技術の高度化	28 ～ 32	平井 敬三					
アイa1		実施課題	森林における物質・エネルギーの蓄積・輸送パラメタリゼーションの高度化と精緻化	28 ～ 32	石塚 成宏	山野井克己 溝口 康子	交付金		-	-
アイaPF3	E1P02	外部プロ課題	森林土壌の炭素蓄積量報告のための情報整備	15 ～ 32	平井 敬三	橋本 徹	政府等受託【公募】	代表	林野庁	森林吸収源インベントリ情報整備事業
アイaPF19		外部プロ課題	自然撓乱後の下層植生が森林のCO2収支に与える影響の解明	28 ～ 30	溝口 康子		科研費【競】	代表	日本学術振興会	基盤研究C(基金)
アイaPS2		交プロ課題	気候変動下での天然林における炭素収支の空間評価・将来予測手法の開発	30 ～ 32	平田 泰雅	北尾 光俊 山野井克己 溝口 康子 古家 直行				
アイb		基幹課題	生態系機能を活用した気候変動適応及び緩和技術の開発	28 ～ 32	野田 巖					
アイb1		実施課題	熱帯林の生態系機能を活用した気候変動適応および緩和技術の開発	28 ～ 32	藤間 剛	伊藤江利子	交付金		-	-
アイbPF3	E1P11	外部プロ課題	緩和策と適応策に資する森林生態系機能とサービスの評価	27 ～ 31	松井 哲哉	津山幾太郎	政府等外受託【競】	分担	横浜国立大学	環境研究総合推進費 (委託費)【戦略的研究】
アイbPF11		外部プロ課題	森林と農地間の土地利用変化に伴う土壌炭素変動量評価とGHGインベントリーへの適用研究	28 ～ 30	金子 真司	橋本 徹 伊藤江利子	政府等外受託【競】	分担	早稲田大学	環境研究総合推進費 (委託費)【問題対応型】
Aウ		戦略課題	生物多様性の保全等に配慮した森林管理技術の開発	28 ～ 32	尾崎 研一					
Aウa		基幹課題	生物多様性保全等の森林の多面的機能の評価および管理技術の開発	28 ～ 32	岡部 貴美子	山中 聡				
AウaPF33		外部プロ課題	ニホンライチョウの分布変遷の解明と気候変化への脆弱性評価	28 ～ 31	津山 幾太郎		科研費【競】	代表	日本学術振興会	基盤研究B(補助金)
AウaPF40		外部プロ課題	日本の樹木の多様性は山岳地形により地史的に高く保たれてきたのではないかと	29 ～ 32	正木 隆	永光 輝義	科研費【競】	代表	日本学術振興会	基盤研究A(補助金)
AウaPF47		外部プロ課題	ベイズ統計によるトラップの捕獲効率を考慮した森林性昆虫群集の生息密度推定	29 ～ 30	山中 聡		科研費【競】	代表	日本学術振興会	研究活動スタート支援(補助金)
AウaPF49		外部プロ課題	花粉媒介昆虫の同定手法および花粉媒介昆虫が利用する植物の同定手法の開発	29 ～ 30	滝 久智	永光 輝義	政府等受託【公募】	分担	農業環境変動研究センター	農業における花粉媒介昆虫等の積極的利活用技術開発

アウaPS1	交プロ課題	地域に応じた森林管理に向けた多面的機能の総合評価手法の確立	28 ～ 31	山浦 悠一	伊藤江利子	交付金プロ	-	交付金プロジェクト1
アウaTF3	事業・助成課題	保残伐による森林景観の持続的管理手法の提案	28 ～ 29	佐山 勝彦		寄付・助成金・共同研究	分担	(地独)北海道立総合研究 三井物産環境基金(研究助成)
アウb	基幹課題	環境低負荷型の総合防除技術の高度化	28 ～ 32	岡 輝樹	服部 力			
アウb1	実施課題	環境に配慮した樹木病害制御技術の高度化	28 ～ 32	服部 力	山口 岳広 石原 誠	交付金	-	-
アウb2	実施課題	森林・林業害虫管理技術の高度化	28 ～ 32	北島 博	佐山 勝彦	交付金	-	-
アウb3	実施課題	野生動物管理技術の高度化	28 ～ 32	岡 輝樹	松浦友紀子	交付金	-	-
アウbPF30	外部プロ課題	ICTを用いた総合的技術による、農と林が連動した持続的獣害対策体系の確立	28 ～ 30	中村 充博	松浦友紀子	政府等外受託【公募】	分担	革新的技術開発・緊急展開事業(地域戦略プロジェクト)
アウbPF33	外部プロ課題	サクラ類こぶ病に対する抵抗性を光で誘導する条件と生理的メカニズムの解明	28 ～ 30	石原 誠		科研費【競】	代表	日本学術振興会 基盤研究C(基金)
アウbPF42	外部プロ課題	林業機械によるトドマツ幹・根系損傷がもたらす腐朽被害のリスク評価	29 ～ 31	山口 岳広		科研費【競】	代表	日本学術振興会 基盤研究C(基金)
アウbPF45	外部プロ課題	分布周縁部のアトラクティブ・シンク化がヒグマ個体群および人間社会に及ぼす影響	29 ～ 32	中下 留美子	石橋 靖幸	科研費【競】	分担	酪農学園大学 基盤研究B(補助金)
アウbPS2	交プロ課題	高齢化したサクラの管理指針の策定	28 ～ 30	勝木 俊雄	石原 誠	交付金プロ	-	交付金プロジェクト2
アウbPS7	交プロ課題	都市近郊林における獣害防除システムの開発	30 ～ 32	岡 輝樹	松浦友紀子			
イ	重点課題	国産材の安定供給に向けた持続的林業システムの開発	28 ～ 32	田中 浩				
イア	戦略課題	持続的かつ効率的な森林施業及び林業生産技術の開発	28 ～ 32	堀 靖人				
イアa	基幹課題	地域特性と多様な生産目標に対応した森林施業技術の開発	28 ～ 32	佐藤 保				
イアa1	実施課題	多様な森林の育成と修復・回復技術の開発	28 ～ 32	齊藤 哲	橋本 徹 関 剛 北尾 光俊 原山 尚徳 梅村 光俊	交付金	-	-
イアa2	実施課題	地域特性に応じた天然林の更新管理技術の開発	28 ～ 32	柴田 銃江	山口 岳広 伊東 宏樹 橋本 徹 永光 輝義 北村 系子 津山幾太郎 中西 敦史 関 剛 梅村 光俊 石橋 靖幸 松浦友紀子 古家 直行 辰巳 晋一	交付金	-	-
イアaPF10	A11S29 外部プロ課題	渇水による樹木枯死要因の解明:喉の渇きか空腹か?	27 ～ 29	原山 尚徳		科研費【競】	代表	日本学術振興会 基盤研究C(基金)
イアaPF15	外部プロ課題	優良苗の安定供給と下刈り省力化による一貫作業システム体系の開発	28 ～ 30	梶本 卓也	山田 健 北尾 光俊 原山 尚徳 佐々木尚三	政府等外受託【公募】	代表	(研)農業・食品産業技術総合研究機構 革新的技術開発・緊急展開事業(地域戦略プロジェクト)
イアaPF20	外部プロ課題	林内機械作業による土壌・植生への攪乱とその持続性の解明	28 ～ 31	倉本 恵生	橋本 徹 津山幾太郎	科研費【競】	代表	日本学術振興会 基盤研究C(基金)

イアPF24		外部プロ課題	外生菌接種によるカラマツコンテナ苗の環境ストレス耐性向上に関する研究	29 ～ 30	北尾 光俊		科研費【競】	代表	日本学術振興会	科研費(特別研究員奨励費)
イアPF25		外部プロ課題	春の光障害は常緑針葉樹の生存を決める要因となる	29 ～ 31	北尾 光俊		科研費【競】	代表	日本学術振興会	挑戦的萌芽研究(基金)
イアPF26		外部プロ課題	天然更新を活用した事業実行マニュアルの整備に関する調査事業	29 ～ 29	佐藤 保	関 剛	政府等外受託【公募】	分担	日本森林技術協会	事業実行マニュアル調査事業
イアPF27		外部プロ課題	竹林における植物ケイ酸体の動態解明による土壌改良機能活用法の提案	29 ～ 29	梅村 光俊		科研費【競】	代表	日本学術振興会	科研費(特別研究員奨励費)
イアPS1	A1P08	交プロ課題	トドマツ人工林主伐に対応した低コスト天然更新施業・管理システムの開発	27 ～ 30	河原 孝行	山口 岳広 伊東 宏樹 橋本 徹 中西 敦史 関 剛 津山幾太郎 北尾 光俊 伊藤江利子 原山 尚徳 梅村 光俊 延廣 竜彦 佐山 勝彦 山中 聡 古家 直行 佐々木尚三	交付金プロ		-	交付金プロジェクト1
イアPS2		交プロ課題	広葉樹も多い中山間地で未利用資源をむだなく循環利用する方策の提案	28 ～ 30	山下 直子	伊東 宏樹	交付金プロ		-	交付金プロジェクト1
イアTF6		事業・助成課題	苗木需要量の増加に対応したコンテナ苗生産・植栽システムの開発	28 ～ 30	津山 幾太郎	原山 尚徳	寄付・助成金・共同研究	分担	北海道立総合研究機構 林業試験場	重点研究
イアb1		実施課題	効率的な木材生産技術及び先導的な林業生産システムの開発	28 ～ 32	田中 良明	辰巳 晋一	交付金		-	-
イアb2		実施課題	森林情報の計測評価技術と森林空間の持続的利用手法の高度化	28 ～ 32	細田 和男	古家 直行	交付金		-	-
イアbPF10		外部プロ課題	苗木植栽ロボットの開発・実証	28 ～ 30	山田 健	古家 直行 佐々木尚三	政府等外受託	分担	福島県林業研究センター	福島イノベーション・コースト構想に基づく先端農林業ロボット研究開発事業
イアbPF18		外部プロ課題	マルチセンサを用いた天然林の持続的管理のためのモニタリング手法の開発	28 ～ 30	平田 泰雅	古家 直行	科研費【競】	代表	日本学術振興会	基盤研究B(補助金)
イアbPS3		交プロ課題	本州以南におけるカラマツの安定供給と持続的利用方策の提案	28 ～ 30	細田 和男	古家 直行	交付金プロ		-	交付金プロジェクト1
イイ		戦略課題	多様な森林資源の活用に対応した木材供給システムの開発	28 ～ 32	堀 靖人	眞柄 謙吾				
イイa		基幹課題	持続的的林業経営と合理的、効率的流通・加工体制の構築に向けた社会的・政策的対策の提示	28 ～ 32	山田 茂樹					
イイaPS3		交プロ課題	資源と需要のマッチングによる北海道人工林資源の保続・有効利用方策の提案	29 ～ 31	嶋瀬 拓也	山田 健 津山幾太郎 古家 直行 辰巳 晋一 佐々木尚三	交付金プロ		-	交付金プロジェクト1
イイb		基幹課題	地域特性に応じた木質エネルギー等の効率的利用システムの開発	28 ～ 32	久保山 裕史					
イイb1		実施課題	効率的な木質バイオマスエネルギー利用システムの提示	28 ～ 32	久保山 裕史	北尾 光俊 伊藤江利子 原山 尚徳 石原 誠	交付金		-	-
エ		重点課題	森林生物の利用技術の高度化と林木育種による多様な品種開発及び育種基盤技術の強化	28 ～ 32	川野 康朗					
エア		戦略課題	生物機能の解明による森林資源の新たな有効活用技術の高度化	28 ～ 32	根田 仁					
エアa		基幹課題	樹木の生物機能の解明とその機能性の新たな有効活用	28 ～ 32	丸山 毅					

エアa1	実施課題	ゲノム情報を利用した適応等に関する遺伝子の特定及びその多様性解明と有効活用	28 ～ 32	松本 麻子	永光 輝義 北村 系子 中西 敦史	交付金	-	-
エアaPF17	外部プロ課題	気候変動の影響緩和を旨とした北方針葉樹の環境適応ゲノミクス	28 ～ 31	北村 系子	津山幾太郎	科研費【競】	分担	東京大学 基盤研究A(補助金)
エアaPF22	外部プロ課題	北限のブナはどこから来たのか？—新発見の最前線創始者集団の由来探索と遺伝子流動—	29 ～ 31	北村 系子		科研費【競】	代表	日本学術振興会 基盤研究C(基金)
エアaPF23	外部プロ課題	海岸林の広葉樹における適応的浸透：種間交雑家系を用いた耐塩性遺伝子の特定	29 ～ 31	永光 輝義		科研費【競】	代表	日本学術振興会 基盤研究C(基金)
エアaPS4	交プロ課題	海岸性ナラ類の適応的な浸透交雑による耐塩性遺伝子獲得機構の解明	28 ～ 29	中西 敦史		交付金プロ	-	交付金プロジェクト2
エアaTF1	事業・助成課題	島嶼性ブナ北限北海道奥尻島における冬季積雪環境が植物の背腹性に与える影響調査	28 ～ 29	北村 系子	永光 輝義	寄付・助成金・共同研究	代表	(公財)自然保護助成基金 プロ・ナトゥーラ・フアンド助成
エアb	基幹課題	きのこ及び微生物が有する生物機能の解明と新たな有効活用	28 ～ 32	山中 高史				
エアbPF4	外部プロ課題	放射能汚染地域におけるシイタケ原木林の利用再開・再生技術の開発	28 ～ 30	平出 政和	伊東 宏樹	政府等受託【競】	代表	農林水産技術会議 農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業
	基盤事業							
キ102	基盤事業課題	森林気象モニタリング	28 ～ 32	玉井 幸治	山野井克己 溝口 康子	交付金		
キ105	基盤事業課題	森林水文モニタリング	28 ～ 32	玉井 幸治	山野井克己	交付金		
キ108	基盤事業課題	森林における降雨・渓流水質モニタリング	28 ～ 32	平井 敬三	橋本 徹	交付金		

Ⅱ．平成 29 年度羊ヶ丘実験林鳥類標識調査結果

森林総研フェロー 川路則友

支所長 河原孝行

[はじめに]

地球規模での森林の環境変化に伴う生物への影響を評価するためには、基礎資料として同一調査地において長期間のモニタリング結果の蓄積が非常に重要となる。北海道支所実験林内では、平成元年からおもに鳥類の渡り経路等の解明に資するための鳥類標識調査(環境省受託事業、以下、バンディング)を継続して行っている。バンディング事業の意義等については、山階鳥類研究所のホームページ

(http://www.yamashina.or.jp/hp/ashiwa/ashiwa_index.html#09)に詳しい。平成 28 年度までの 28 年間で、調査日数は 2,000 日間を超え、合わせて 92 種 59,204 羽の鳥類に環境省製金属足輪を装着して放鳥してきた。毎年度の調査結果については、平成 15 年度から北海道支所年報に掲載しており、平成 25 年度にはそれまでに得られた脚輪回収結果等について「北の森だより」で報告した(川路・河原 2013)。調査は鳥類標識調査員(バンダー)として登録された職員 2 名(河原孝行および川路則友)により、それぞれが北海道支所に在籍した期間に応じて行ってきた。平成 29 年度については、平成 25 年度から四国支所および本所へ異動していた河原が平成 29 年 4 月に北海道支所へ再度着任してきたことから、おもに職員 2 名で調査を行った。また、実験林利用許可を得て鳥類の生態研究を行っていた北海道大学学生の青木大輔氏が、研究の合間に 8 月 27 日の 1 日間だけ独自に調査を行った。今回はその結果も含めて羊ヶ丘実験林の調査結果として集約、解析等を行った。また、北海道支所においては、バンディングを単なる受託事業として行うだけでなく、その結果を実験林に生息する森林性鳥類の渡り傾向、繁殖生態の解明等の研究にも積極的に応用し、成果としてこれまで多くの論文等で公表してきた(たとえば、川路 1996、Kawaji *et. al.* 1996、川路・広川 1998、上沖ら 2014、川路 2017 など)。さらに、平成 25 年度から開始した「標準化された標識調査による鳥類繁殖モニタリング調査(以下、繁殖鳥モニタリング調査)」の結果についても報告を行っている(川路・中田 2015)。以下に、平成 29 年度の結果について詳述する。

[材料と方法]

平成 29 年度は 4 月 22 日から 11 月 14 日までの間で合計

88 日間の調査を行った。春秋の渡り期には、おもに実験林内を通過する渡り鳥に、繁殖期には実験林内で営巣するヤブサメ、コルリ、アオジといった森林性鳥類の巣内ヒナに足環を付け放鳥したほか、定期的に繁殖鳥モニタリング調査を行った。これらは、例年どおりである。

調査には、鳥類標識調査用の鳥獣捕獲許可(学術研究用捕獲許可の一種)を取得し、渡り期のバンディングには実験林内 3 林班、6 林班および 8 林班の適当な場所に捕獲用網(カスミ網)を設置して行った。調査はおもに早朝(日の出時刻前後)から開始し、捕獲効率が低下する(川路 1996)とされる 9:00am ころまでで調査を終えた。網場の見回りはなるべく頻繁に行い、捕獲された鳥類への負担が少なくなるように努めた。また足環の装着後、必要に応じて観察、体部計測等を行ったのち、すみやかに放鳥した。巣内ヒナへのバンディングは、その種の成鳥に付けるものと同じサイズの足環が付けられるほどにじゅうぶん脚部が成長し、しかも巣から強制巣立ちさせることのないタイミングを選んで、さらに巣に捕食者を誘引することのないように注意しながら慎重に行った。使用したカスミ網のサイズ、調査地環境等については、これまでとほぼ同様である(詳しくは河原・川路 2011 参照)。

繁殖鳥モニタリング調査については、羊ヶ丘実験林の 6 林班と 8 林班内に 1 箇所ずつ設けた固定調査地に、それぞれカスミ網(HTX、30mm メッシュ×12m)を 5 枚ずつ張り、5 月末から 8 月中旬までの期間を 10 日間ずつ 8 つの期に分け、各期で 1 回ずつ合計 8 回の調査を行った。調査は、日の出時刻もしくは午前 4 時のどちらか遅い方の時間に開始して 6 時間の間、網を開き、約 30 分の間隔で見回りを行った。捕獲した鳥類には、標識調査用の金属製番号付き足環を装着したのち、捕獲時間、網番号を記載し、性、齢を判別、自然翼長、最大翼長および体重を測定、記録した。また脂肪量、抱卵斑の有無、総排泄腔突出具合、換羽状況などの観察、記録を行ったのち、すみやかに放鳥した。これらは、すべて山階鳥類研究所保全研究室作成による繁殖鳥モニタリング調査マニュアル(第 1 版)に従ったものである(千田ら 2017)。

[結果と考察]

平成 29 年度は、合わせて 51 種 2,664 羽（新放鳥 2,453 羽、再捕獲 211 羽）を捕獲、放鳥した（表 1）。1 日あたりの放鳥数は 30.3 羽であり、例年に比べてやや多かった。

もっとも放鳥数が多かったのは、アオジで 662 羽（全体の 23.3%、新放鳥 588 羽、再放鳥 34 羽、以下そのように表記）であった。そのほか、放鳥数合計が 100 羽を超えている鳥類は、クロツグミ 357 羽（13.4%、344 羽、13 羽）、キビタキ 341 羽（12.8%、305 羽、36 羽）、ルリビタキ 277 羽（10.4%、266 羽、11 羽）、ヤブサメ 243 羽（9.1%、200 羽、43 羽）、ウグイス 160 羽（6.0%、151 羽、9 羽）、クロジ 128 羽（4.8%、117 羽、11 羽）、メジロ 116 羽（4.4%、113 羽、3 羽）であった。もっとも放鳥数の多かったアオジは、5 年ぶりに新放鳥数が 600 羽に迫る数となった。これは、調査者が 2 名に増え、通常のアオジに見られる秋季の渡り最盛期である 10 月初旬から中旬にかけての調査日数がある程度確保できたためと考えられる。同様に、クロツグミ、キビタキ、ルリビタキについても、新放鳥数としては、過去 5 年間で最も多い数となった。それに対して、ヤブサメの新放鳥数は、昨年度（新放鳥数 236 羽）より少なかった。後述するが、ヤブサメは繁殖鳥モニタリング調査の期間中に捕獲される個体数においても 5 年間の中でもっとも少なかった。ウグイスは過去 5 年間の中でもっとも多かったが、クロジとメジロは年変動が激しく、明確な傾向は認められなかった。

春季の渡りについては、例年通り 4 月下旬～5 月初旬にルリビタキの放鳥数が多くなる傾向が認められた。

繁殖期における巣内ヒナへのバンディングでは、営巣を確認し、繁殖経過をモニタリングしたヤブサメ 1 巣（巣内ヒナ 6 羽）、アオジ 1 巣（同 5 羽）、コルリ 1 巣（同 5 羽）で合計 16 羽のヒナに標識を付した。これらの巣内ヒナへのバンディングは、確実に羊ヶ丘実験林で生まれた個体に標識付けをすることで、のちに回収された場合、渡り途中の個体を捕獲しバンディングしたものに比べて、寿命、起始点からの移動、帰還率等をより正確に判断できることが期待される。平成 28 年度までに足環を付けて放鳥した夏鳥の巣内ヒナの再捕獲場所と出生巣との位置関係から、それぞれのヒナが巣立ち後の移動距離、滞留期間を推定した結果を論文で公表した（川路 2017）。

秋季の渡りでは、1 日に 100 羽以上新放鳥した日が 3 日間（10 月 8 日、9 日および 20 日）あり、いずれもアオジの放鳥数がかなり多かったことから、アオジの渡りに二つのピークがあったものと考えられた。例年通り、8 月下旬～9 月中旬にヤブサメ、キビタキが多く、9 月下旬以降にメジロ、クロツグミ、アオジのそれぞれピークが続く傾向が認められた。また、9 月 6 日から 10 月 4 日の間にコノハズク

のテープによる夜間誘引を行った結果、コノハズク（写真 1）が 6 年ぶり、アオバズクが 5 年ぶりに記録された（表 1）。両種は北海道では夏鳥であり、羊ヶ丘は春秋の渡りの際通過するものと考えられる。フクロウ類は昼間の鳥類センサーや観察会で記録されることはまれであり、その動向はほとんどわかっていないことから、標識調査による確実な記録は重要なものである。

標識鳥の回収については、リピート（Rp、羊ヶ丘実験林で放鳥されたあと 6 ヶ月以内に同地で再捕獲された場合）が 147 羽と最も多く、リターン（Rt、羊ヶ丘実験林で放鳥したあと 6 ヶ月以上経過して同地で再捕獲された場合）が 61 羽であった。リカバリー（Rc、羊ヶ丘実験林もしくは 5km 以上離れた他所で放鳥された個体が 5km 以上離れた別の場所もしくは羊ヶ丘実験林で再捕獲された場合）が 2 羽報告された（表 2）。Rc 記録はアオジとベニマシコであったが、前者は 8km 南方に位置する西岡国有林内で放鳥されたものが、4 日後に羊ヶ丘で再捕獲された。後者は 383km 西南方に位置する岩手県宮古市津軽石で 2016 年 11 月 7 日に放鳥されたものが、356 日後に羊ヶ丘で再捕獲されたものである。羊ヶ丘と東北地方太平洋側との放鳥回収例はこれまでまったくなかったもので、羊ヶ丘を通過するベニマシコの渡り経路を推測する上でも非常に貴重な記録となる。

リターン（Rt）記録は、通常の野外観察では個体識別の困難な野生鳥類の寿命を知るうえで貴重なデータとなる。新放鳥後約 2 年以上経過して、平成 29 年度内に再度羊ヶ丘実験林で回収されたものは 12 種 27 個体あった。羊ヶ丘で種、性ごとに、これまでもっとも長期間を経て回収された例を表 2 に示した。このうち、ヤマガラ（性不明、写真 2）、クロツグミ（メス）については、今回再捕獲された記録が同種（同性）における羊ヶ丘実験林での最長寿命記録となった。

平成 25 年度から開始した繁殖鳥モニタリング調査では、12 種 101 個体が調査期間中に新放鳥もしくはリターン（Rt）回収された（表 4）。また調査期間中にリピート（Rp）回収されたのは、7 種 13 羽であった。捕獲数ならびに種数は、5 年間の調査期間の中でもっとも少なかった（図 1）。また例年もっとも多く捕獲されるヤブサメの 5 年間捕獲数推移を見ると（図 2）、2013 年～2016 年の 4 年間の平均捕獲数は、オスで 14.5 羽、メスで 8.8 羽、幼鳥で 10.0 羽であったが、それらと比較すると、2017 年では、オスが 11 羽（24.1%減少）、メスが 5 羽（42.9%減少）、幼鳥が 4 羽（60.0%減少）となり、とくに幼鳥で大きく減少していた。実際に野外の観察でも、ヤブサメのさえずりが少なく感じられ、繁殖に成功した巣もほとんど見られなかった。羊ヶ丘実験林内の環境はこの 5 年間でそれほど大きな変化があ

ったとは思えないことから、渡り途中もしくは越冬地での環境変化が影響して、羊ヶ丘へ戻ってくるヤブサメ個体群が少なくなっている可能性が考えられる。このように、繁殖期の長期モニタリングにより、特定の渡り鳥について繁殖状況や個体群動態が明らかになることは非常に意義深い。

[文献]

- 上沖正欣・川路則友・河原孝行 (2014) ヤブサメ *Urosphena squameiceps* における繁殖地への帰還率. 日本鳥類標識協会誌 26(2): 62-68.
- 河原孝行・川路則友 (2011) 平成 22 年度羊ヶ丘実験林鳥類標識調査結果. 平成 23 年版森林総合研究所北海道支所年報: 24-30.
- 川路則友 (1996) 春の渡り期における林床性鳥類捕獲数の日周変化. 日本鳥学会誌 45(3): 175-182.
- 川路則友 (2017) 森林性夏鳥の幼鳥における出生地周辺滞留期間. 日本鳥類標識協会誌 29(2): 73-84.
- 川路則友・広川淳子 (1998) ヤブサメにおける Complete post-juvenile moult について. 日本鳥類標識協会誌 13(1): 1-7.
- 川路則友・河原孝行 (2013) 羊ヶ丘の鳥はどこから来て、どこへ行く? 北の森だより 10: 4-8.
- 川路則友・中田達哉 (2015) 標準化された標識調査による鳥類繁殖モニタリングの有効活用. 日本鳥類標識協会誌 27: 14-22.
- Kawaji, N., Kawaji, K. & Hirokawa, J.(1996) Breeding ecology of the Short-tailed Bush Warbler *Cettia squameiceps* in western Hokkaido. Jap. J. Ornithol. 45: 1-15.
- 日本鳥学会 (2012) 日本鳥類目録改訂第 7 版. 日本鳥学会. 三田.
- 千田万里子・仲村昇・尾崎清明 (2017) 2012~2016 年に福島県で行われた繁殖鳥モニタリング調査の結果報告. 山階鳥類学雑誌 48: 117-129.

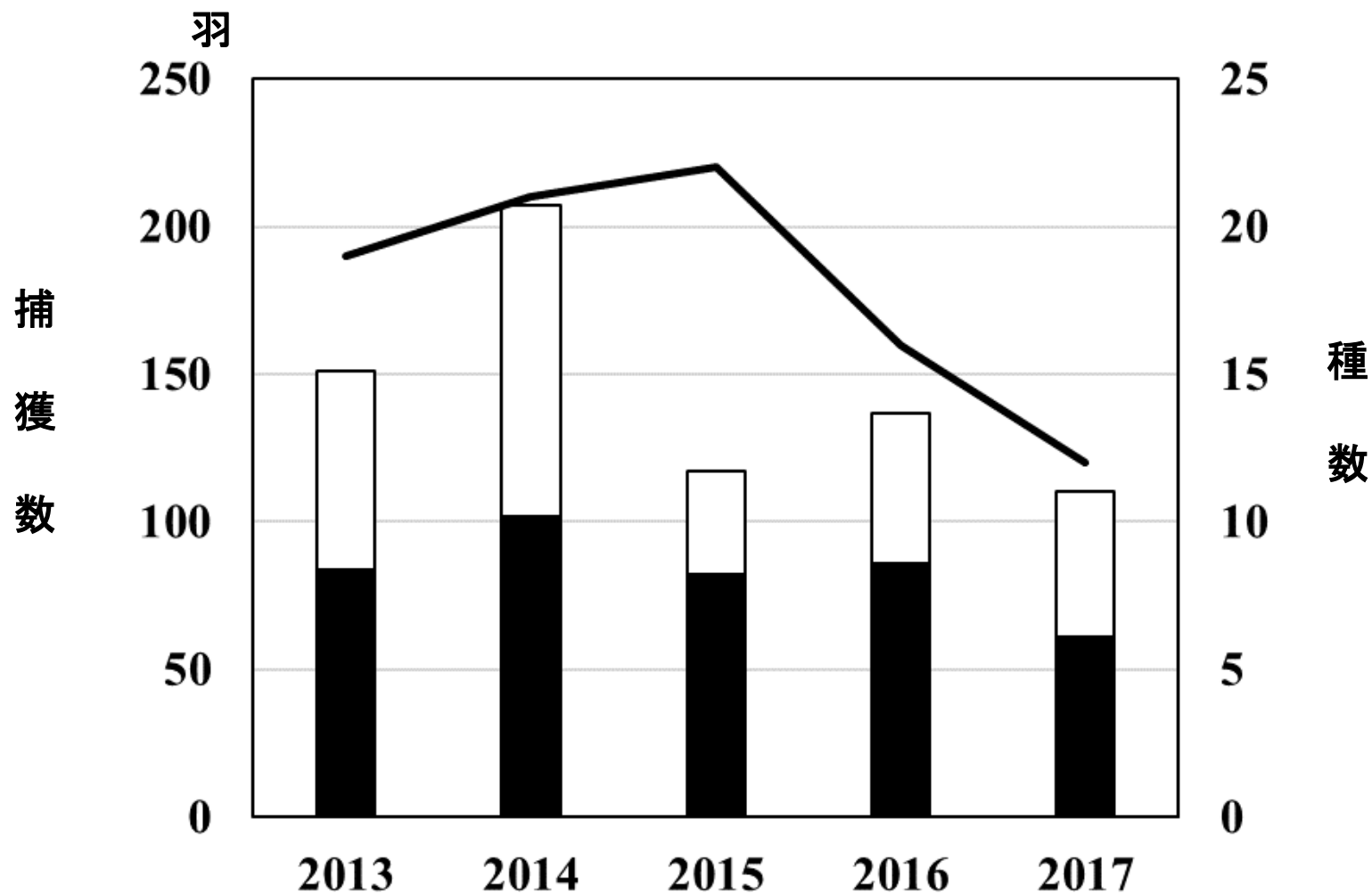


図1 繁殖鳥モニタリング調査期間中の捕獲数と種数(平成25年度～29年度)

成鳥捕獲数
 幼鳥捕獲数
 種数

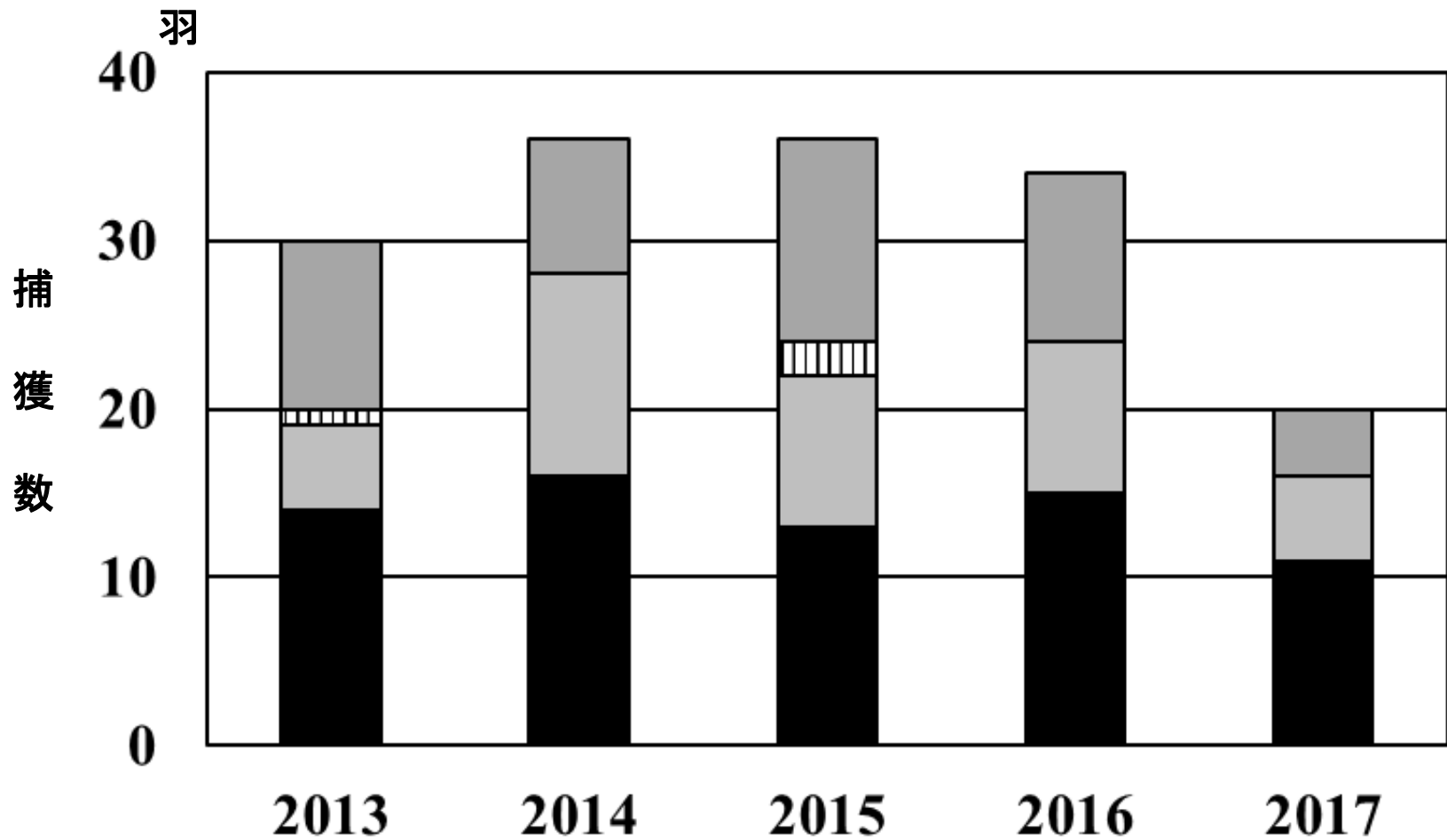


図2 繁殖鳥モニタリング調査期間中におけるヤブサメ捕獲個体の性齢割合

オス成鳥
 メス成鳥
 性不明成鳥
 幼鳥



写真1. コノハズク(性不明・幼鳥)2017年10月1日



写真2.羊ヶ丘のヤマガラ最高齢(8歳以上)を記録した個体(2AD-41001)

表1 平成29年度日別放鳥一覧

調査月日	4/22	4/23	4/25	4/26	4/27	4/28	4/29	4/30	5/2	5/3	5/4	5/5	5/6	5/7	5/9	5/10	5/12	5/13	5/14	5/20	5/21	5/23	5/24	5/31	6/3	6/10	6/11	
天候	C	C	F	C	F	C	F	C	C	F	F	F	C	F	F	F	C	C	C	F	F	C	C	F	C	C	C	
新放鳥数	5	24	88	34	24	13	37	24	30	31	24	23	14	6	7	11	6	11	21	7	6	4	3	8	1	1	4	
再捕獲数(R)	0	1	2	4	3	8	4	6	6	6	5	5	7	5	4	2	3	6	4	8	6	3	3	4	1	5	5	
種名／種類数／放鳥種別	3	6	11	10	10	7	11	8	12	9	12	10	6	8	8	8	4	10	13	10	7	4	4	7	2	3	6	
	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N
1 ヤマシギ																												
2 ツミ																												
3 ハイタカ																												
4 コノハズク																												
5 アオバズク																												
6 コゲラ																												
7 アカゲラ																												
8 モズ				1																				1			1	
9 カケス																												
10 キクイタダキ				1																								
11 ハシブトガラ	1	1		1	1	1	1				1	1	1															
12 コガラ						1	1		1					1			1											
13 ヤマガラ																			1									
14 ヒガラ																			2									
15 シジュウカラ		1	7		1		1	1	1	1	2	1	1	2	1	1			2	1	2						1	
16 ヒヨドリ																												
17 ウグイス			3	1	1	2		2		2	4	1	5	3	5	2	1	1	1	2	1	1			1			
18 ヤブサメ		1	1	7	1	6	1	2	4	2	3	2	1	3	5	2	2	3	1	3	3	7	1		1	1	1	
19 エナガ			1	1			1																					
20 オオムシクイ																												
21 エゾムシクイ												1	1				2		1	2	1							
22 センダイムシクイ												1	1		1		2		1	1	1			1			2	
23 メジロ					1		2					2	1		1		1		2		1					1		
24 シマセンニュウ																												
25 ゴジュウカラ				1				1				1																
26 キバシリ												1																
27 ミソサザイ		1		2																								
28 マミジロ																												
29 クロツグミ				1		3	1	2			2	1				1			1	1			1		3	1		
30 トラツグミ																										1		
31 マミチャジナイ															1					1								
32 シロハラ							1		1																			
33 アカハラ																												
34 コマドリ													1															
35 ノゴマ									1		1																	
36 コルリ										1	1	1	1	1	2	1	1	2	1	1	1	1	1					
37 ルリビタキ			60	1	12	6	1	3	20	17	1	8	1	10	3	9	1		1	1	1							
38 コサメビタキ																												
39 キビタキ															1				2	1	2	4	1	1	1	2	1	
40 ムギマキ																												
41 オオルリ									1												1							
42 ビンズイ																												
43 アトリ	2	18	2	3	5		1	1	1																			
44 マヒワ			2		1																							
45 ベニマシコ																												
46 ウソ		2																										
47 ホオジロ																												
48 カシラダカ																												
49 ミヤマホオジロ																												
50 アオジ	2	1	3	8	1	1	1	1	2	6	2	6	1	5	2	2			1	1			2		1	1		
51 クロジ				1	4	1	5	5	1	2	1	3	1	4		1			2		1	5	1				2	

種の配列は、日本鳥類目録改訂第7版（日本鳥学会2012）によった。天候：F（晴れ）、C（曇り）、R（雨）、Fg（霧）。放鳥種別：R（再捕獲）、N（新放鳥）。

平成29年度日別放

調査月日	6/15	6/17	6/18	6/20	6/24	7/1	7/2	7/6	7/15	7/23	7/30	8/13	8/20	8/23	8/24	8/25	8/27	8/28	9/2	9/3	9/4	9/6	9/7	9/8	9/10	9/14	9/15	9/16													
天候	C	C	F	F	C	F	C	F	F	C/F	F	C	F	C	C	C	F	C	C	C/F	C/F	F	C	F	C/F	C/F	F	C													
新放鳥数	13	1	1	6	8	14	0	1	8	8	20	19	24	10	23	17	28	15	45	40	29	43	26	23	19	19	32	51													
再捕獲数(R)	0	0	0	0	0	5	1	1	2	1	1	1	0	1	3	2	0	1	4	2	2	2	0	3	4	1	3	1													
種類数/放鳥種別	4	1	1	1	3	8	1	1	5	7	6	7	5	5	5	3	4	6	7	7	5	6	6	7	4	5	7	10													
	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N													
ヤマシギ																																									
ツミ																																									
ハイタカ																																									
コノハズク																						1						1													
アオハズク																												1													
コゲラ																																									
アカゲラ										1																															
モズ					2	1			1																																
カケス																																									
キクイタダキ																																									
ハシブトガラ																																									
コガラ																											1														
ヤマガラ																								1				1													
ヒガラ																																									
シジュウカラ					2	1	4							1					1		1																				
ヒヨドリ							1																																		
ウグイス																										1															
ヤブサメ					6	4	2	1			4	1		1	3	1	3	6	6	3	10	9	9	3	1	5	2	6	8	1	11										
エナガ																																									
オオムシクイ																																									
エゾムシクイ																																									
センダイムシクイ	2	1	1				4	1	1	1		1	2	2																											
メジロ														5		2		2	3	1	5				2	1		1	7												
シマセンニュウ																																									
ゴジュウカラ																																									
キバシリ																																									
ミソサザイ																																									
マミジロ																												1													
クロツグミ									1		3	3	1	3	2		1		2	2	8	1	7	3	3	3	1	3	1	5	2	1	5	11							
トラツグミ																																									
マミチャジナイ																																									
シロハラ																																									
アカハラ																																									
コマドリ																																									
ノゴマ																																									
コルリ	5					2					4	5	3	1	1	1	5	1	3	1	1	1																			
ルリビタキ																																									
コサメビタキ																																									
キビタキ	1					1				1	1	7	4	11	1	4	3	16	2	10	12	1	5	3	21	1	14	1	16	2	33	16	2	10	3	11	1	8	2	15	15
ムギマキ																																									
オオルリ																								1																	
ビンズイ																																									
アトリ																																									
マヒワ																																									
ベニマシコ																																									
ウソ																																									
ホオジロ																																									
カシラダカ																																									
ミヤマホオジロ																																									
アオジ	5					2				3	1	1	2	3				1	1	2	2		2	2	1			1						1	2		2				
クロジ											1	2	1						1	1		2	3		1			2	1					1							

平成29年度日別放

調査月日	9/17	9/19	9/20	9/22	9/23	9/24	9/26	9/29	9/30	10/1	10/4	10/5	10/7	10/8	10/9	10/11	10/13	10/14	10/15	10/16	10/19	10/20	10/21	10/22	10/25												
天候	C	C/R	F/C	F	F	F	F	C/R	C/F	F	F	C/F	C/R	F	C/F	C	C	F	F	F	F	C	F	C/Fg	F												
新放鳥数	14	20	29	27	31	39	28	30	50	89	39	30	18	130	148	64	31	47	52	33	74	141	70	53	17												
再捕獲数(R)	1	1	3	1	0	2	1	0	5	0	1	1	1	4	4	2	2	2	3	3	1	3	0	3	3												
種類数/放鳥種別	4	6	7	7	6	8	8	8	9	13	8	8	7	9	13	9	9	9	12	12	9	13	11	11	10												
	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N											
ヤマシギ																					1																
ツミ								1		1										1	1																
ハイタカ										2																											
コノハズク										1																											
アオバズク			1																																		
コゲラ																							2														
アカゲラ																									1	2											
モズ																																					
カケス																									2												
キクイタダキ																									1												
ハシブトガラ									1																												
コガラ																2								1	1												
ヤマガラ													1		1																						
ヒガラ																																					
シジュウカラ						2	2		1	1				1	2	3		2				1	1		1	1											
ヒヨドリ																																					
ウグイス				1		3	4		1	1	1	3	2	1	8	8		2	6	6	6	11	7	8	1	15	4										
ヤブサメ	3	7	6	5	3	12	3	1		2	2	1	1		1	1		1	1		1																
エナガ																3																					
オオムシクイ			1																																		
エゾムシクイ																																					
センダイムシクイ																																					
メジロ			4	6	2	4	6	2	6	8	8			2		4		5		3	1	5	2	6	1	1											
シマセンニュウ																																					
ゴジュウカラ																						1															
キバシリ																																					
ミソサザイ																																					
マミジロ								1																													
クロツグミ	1	7	7	3	8	4	6	14	12	19	15	13	7	31	37	1	29	10	17	18	4		1	1	2												
トラツグミ																																					
マミチャジナイ										1	1	1			2	2	3		1	1		1		2	2												
シロハラ																1	1		4	2		2	1	3		2											
アカハラ																2	1			3	1	1			1												
コマドリ						1								4	1	1	1		2	1	1	1	5	3	1												
ノゴマ									1	7		1	2	1	1	1			1				1		1												
コルリ																																					
ルリビタキ																			2			18	1	7	1	7	3										
コサメビタキ																																					
キビタキ	1	8	1	2	3	5	4	14	4	3	5	1	3	1	1	3			1	1																	
ムギマキ																																					
オオルリ																				1																	
ビンズイ																																					
アトリ																																					
マヒワ																																					
ベニマシコ																		2					6	2													
ウソ																																					
ホオジロ																																					
カシラダカ																1				1																	
ミヤマホオジロ																																					
アオジ		2		4	5	3	2	8	1	3		3	17	35	9	6	3	2	77	2	85	1	22	2	9	11	2	15	1	7	1	37	1	91	40	15	1
クロジ	2	1	2	1	3	1	2		3	9	10	1	2	1	2	3	4		4	4		1	2	3	1	2	1	1	3	1	2	4	1				

平成29年度日別放

調査月日	10/26	10/27	10/28	10/29	11/1	11/3	11/5	11/14	88日間				
天候	F	F	F	C	C/F	C	C	C					
新放鳥数	27	35	19	15	9	26	6	2	2,453羽				
再捕獲数(R)	0	2	0	1	0	1	3	0	211羽				
種類数/放鳥種別	4	13	7	8	4	6	5	2	51種				
	R	N	R	N	R	N	R	N	R	N	R+N		
ヤマシギ									0	1	1		
ツミ									1	3	4		
ハイタカ									0	2	2		
コノハズク									0	3	3		
アオバズク									0	2	2		
ヨゲラ						1			0	3	3		
アカゲラ			1				1		2	5	7		
モズ									1	6	7		
カケス									0	2	2		
キクイタダキ			1						0	3	3		
ハシブトガラ									6	5	11		
コガラ			1						5	6	11		
ヤマガラ									2	3	5		
ヒガラ								1	0	3	3		
シジュウカラ			1		2		2	1	13	48	61		
ヒヨドリ					1				0	2	2		
ウグイス		5	5	1		2	5	1	9	151	160		
ヤブサメ									43	200	243		
エナガ									4	5	9		
オオムシクイ									0	1	1		
エゾムシクイ									0	8	8		
センダイムシクイ									5	24	29		
メジロ					1				3	113	116		
シマセンニュウ									0	1	1		
ゴジュウカラ									2	2	4		
キバシリ									0	1	1		
ミソサザイ			2			1		1	0	7	7		
マミジロ									0	2	2		
クロツグミ									13	344	357		
トラツグミ					1				0	1	1		
マミチャジナイ									0	19	19		
シロハラ			1					1	0	20	20		
アカハラ						1			0	10	10		
コマドリ									1	22	23		
ノゴマ									0	21	21		
コルリ									8	45	53		
ルリビタキ		12	11	8	5	4	1	16	2	3	11	266	277
コサメビタキ										0	1	1	
キビタキ										36	305	341	
ムギマキ										0	1	1	
オオルリ										0	4	4	
ビンズイ			1							0	1	1	
アトリ										0	33	33	
マヒワ										0	3	3	
ベニマシコ		9		1	1	3				1	23	24	
ウソ										0	2	2	
ホオジロ					3					0	3	3	
カシラダカ			2	2	1	1				0	8	8	
ミヤマホオジロ			1	1	1		1			0	4	4	
アオジ			1	5	3					34	588	622	
クロジ		1	4							11	117	128	

表2 これまで羊ヶ丘で記録された各種鳥類の再捕獲までの経過年月

	性	年	月	回収年
バブトガラ	メス	9	5	2002
コゲラ	メス	9	0	2008
アオジ	メス	8	7	2003
バブトガラ	オス	7	9	2004
アオジ	オス	7	7	2002
コルリ	オス	7	0	2012
ヤマガラ	不明	6	11	2017
アカゲラ	オス	6	8	2001
バブトガラ	不明	6	0	2001
コゲラ	オス	5	11	2012
セダムシクイ	オス	5	11	2004
ジユウカラ	オス	5	6	1999
クロツグミ	オス	5	0	1999
ヒゲタキ	オス	4	11	2014
コガラ	不明	4	3	1992
クロジ	メス	4	0	2014
ヒゲタキ	メス	4	0	1996
ヤブサメ	オス	4	0	2006
ヒヨドリ	不明	4	0	1993
ギンバト	不明	3	11	2007
エガ	不明	3	11	1995
クロツグミ	メス	3	11	2017
ヤブサメ	メス	3	8	1999
オアカゲラ	オス	3	8	2014
エガ	オス	3	8	2006
エガ	メス	3	6	2002
ジユウカラ	メス	3	6	1994
オアカゲラ	メス	3	2	2013
アカゲラ	メス	3	2	2010
ウグイス	オス	3	1	2007
ヒガラ	オス	3	1	2002
コルリ	オス	3	0	2005
ヤブサメ	不明	3	0	2013
ウグイス	メス	3	0	2010
キバシリ	オス	3	0	2004
ヤマガラ	メス	2	4	2009
コガラ	メス	2	4	1994
ハクセキレイ	メス	2	1	1990
ミソザイ	オス	2	1	2010
メジロ	不明	2	1	2013
セダムシクイ	不明	2	0	2013
メジロ	不明	2	0	1995

表3 平成29年度中に判明した標識個体の移動回収例

種名	足環番号	性	齢	放鳥年月日 回収年月日	放鳥場所 回収場所	経過日数	距離
アオジ	2AH21471	F F	J J	2017/10/09 2017/10/13	札幌市豊平区西岡 国有林1206林 班 森林総合研究所北海道支所実験林	4日	8km
ベニマシコ	1E79758	F F	J A	2016/11/07 2017/10/29	宮城県宮古市津軽石 森林総合研究所北海道支所実験林	356日	383km

F: メス、A: 成鳥、J: 幼鳥

表4 繁殖鳥モニタリング捕獲結果

種名	オス成鳥			メス成鳥			幼鳥			合計		
	New	R t	R p	New	R t	R p	New	R t	R p	New + R t	R p	
ヤブサメ	7	2	3	3	2		4			18	3	
キビタキ		1	2	3			12			16	2	
アオジ		3	1	3	1	1	7			14	2	
クロツグミ	5		1	4	1	1	3			13	2	
センダイムシクイ	1			2		1	8			11	1	
コルリ	2			5			4			11		
シジュウカラ	1		1	1		1	4			6	2	
モズ	1			1			3		1	5	1	
クロジ							4			4		
ウグイス				1						1		
アカゲラ					1					1		
ヒヨドリ				1						1		
合計	17	6	8	24	5	4	49	0	1	101	13	

New: 新放鳥、R t: リターン回収、R p: リピート回収

Ⅲ. 広報活動

名称：平成29年度一般公開

日時：平成29年6月9日（土） 9:30～15:30

参加者：155名

主催：森林総合研究所北海道支所・林木育種センター北海道育種場・森林整備センター札幌水源林整備事務所

概要：一般の方が普段は立ち入れない実験林内を案内したエコツアーや、普段利用いただいている樹木園内のガイドでは、参加者から多くの質問を受けました。

北海道育種場は「挿し木体験コーナー」を担当し、多数の参加をいただきました。



森林講座（標本館）



実験林ツアー



樹木園ガイド



挿し木体験コーナー



体験コーナー

名称：平成29年度森林総合研究所 北海道地域研究成果発表会

日時：平成30年2月27日（火）13:30～16:10

参加者：106名

場所：札幌市男女共同参画センター 3階ホール（札幌エルプラザ内）

テーマ：「森林・林業・林産業の現在と未来」

基調講演：「最近の木材利用に関する課題と森林総研の取り組み」

発表者：長尾博文

〔要旨〕 戦後の拡大造林によって植林されたわが国の人工林は成熟期を迎え、これらの森林から生産される丸太は従来の小・中径材から末口径が30cmを超える大径材へと移行しつつあります。しかしながら、小・中径材に対して効率的な製材ラインをもつ製材工場は、その設備を大径材にそのまま適用することができない状況にあります。また、柱・梁として使用される正角・平角についても、丸太の大径化により心去り材が採材できるようになりましたが、成長応力や乾燥応力による曲がり等のために歩止りの低下が免れません。一方、国内の森林資源を有効活用するとともに、大規模な木造建築物を実現するためにCLT(直交集成板)の利用が期待されており、その製造、品質、建物の設計法を規定するために様々な方面で検討が進められています。そこで、大径材利用及びCLTに関する課題に対して、森林総合研究所の最近の取り組みについて紹介します。

発表1：「島嶼ブナ北限奥尻島集団の遺伝的多様性と分化」

発表者：北村系子

〔要旨〕 日本列島の冷温帯広葉樹林を代表するブナの地理的分布の北限は渡島半島にあります。一方、日本海の島嶼にもブナが天然分布し、これら島嶼性ブナの北限は奥尻島にあります。奥尻島の8割は森林で覆われ、そのうち6割をブナ林が占めています。ブナは海岸段丘上の風衝地から山地斜面にかけて広く分布し、個々の集団は極めて多様な森林群落を形成しています。奥尻島のブナ林のDNAを調べた結果、渡島半島の連続集団に匹敵する高い遺伝的多様性を示すことが明らかになりました。奥尻島の森林は暖温帯要素の植生が見られ、比較的寡雪であることから東北地方太平洋側のブナ林との関連が示唆されます。奥尻島のブナの遺伝的特徴を、渡島半島および北東北のブナ林と比較した結果について報告します。

発表2：「アオダモの持続的利用に向けた育種からの取り組み」

発表者：福田陽子

〔要旨〕 北海道産のアオダモは優良なバット材として知られているが、シカの食害やササにより伐採後の天然更新が阻害され、資源の減少が危惧されており、近年アオダモ資源の回復に向けて植樹活動が進められています。将来、バット材として利用可能な人工林を育成するには、遺伝的に質の高い種子の安定的な確保と、環境への不適応による枯死や生育不良を避けるため「適地適木」の植栽が重要です。そこで、着花の豊凶と結実率との関係について検討するとともに、葉緑体DNAにおける地理的変異および道内6産地の苗木を用いて設定した産地試験地における成長調査に基づき、道内における種苗移動の適否について検討しました。ここでは、その結果について発表します。

発表3：「森林資源と木材市場から見通す北海道林業・木材産業の将来方向」

発表者：嶋瀬拓也

〔要旨〕 木材産業の歴史に関する研究成果を手がかりに、北海道の林業・木材産業の将来方向を考えます。

さまざまな樹種の丸太が世界中から好きなだけ輸入できた時代、わが国の木材産業はそれらの丸太を用途に応じてみごとに使い分けてきました。しかし2000年代に入ると、国際的な木材需要の高まりなどのために丸太輸入は難しくなり、市場のあちこちにすきまが生じました。国産材を使ってこのすきまを埋めようとしてきたのが国内林業・木材産業のこの10年です。しかし、北海道はこの流れに十分に乗り切れていません。地域の森林資源を有効に使っていくために、本道の林業・木材産業は何を作り、誰に売ればいいのか、それにはどのような課題があるのかをお話しします。



開会挨拶（河原支所長）



基調講演（長尾）



発表 1（北村）



発表 2（福田）



発表 3（嶋瀬）



閉会挨拶（宿利北海道育種場長）

IV. 平成29年度研究業績

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
河原孝行	2018.3	はじめに	森林総合研究所北海道支所年報(平成29年版)、1
河原孝行	2018.1	着任のご挨拶	北の森だより、18:2
伊東宏樹、中西敦史、津山幾太郎、関剛、河原孝行	2018.3	被度階級データのモデリングによる石狩川源流域風倒跡の植生回復過程の推定	日本生態学会大会講演要旨集、65:P3-026
河原孝行	2018.01	北海道 草木の葉(8) オニク	北方林業、69(1):46
河原孝行	2018.10	北海道 草木の葉(7) トドマツ	北方林業、68(4):159 2
河原孝行	2018.7	北海道 草木の葉(6) ウド	北方林業、68(3):118
河原孝行	2018.4	北海道 草木の葉(5) エゾエンゴサク	北方林業、68(2):80
岡杏奈(信州大)、平川浩文、瀧井暁子(信州大)、泉山茂之(信州大)	2017.12	時間軸分析法によるニホンジカ出産時期の推定	山岳科学学術集会プログラム、3:44
平川浩文、瀧井暁子(信州大)、高畠千尋(信州大学)、泉山茂之(信州大)	2017.09	動物移動軌跡の時間軸分析2-時空間密度法の開発	日本哺乳類学会大会プログラム・講演要旨集(2017)、193-193
伊藤賢介	2017.06	日本から米国東部に侵入したハリモミヒメカサアブラムシ <i>Adelges tsugae</i> の生態と防除	林業と薬剤、220:6-14
矢部恒晶	2018.03	基調講演「最近の木材利用に関する課題と森林総研の取り組み」をきいて	北の森だより、19:8
矢部恒晶	2018.02	「先進造林機械による再造林技術 検討会」開催報告	北の森だより、18:3-4
長慶一郎(九州大学)、鍛冶清弘(九州大学)、佐々木寛和(九州大学)、壁村勇二(九州大学)、山内康平(九州大学)、井上幸子(九州大学)、緒方健人(九州大学)、南木大祐(九州大学)、久保田勝義(九州大学)、椎葉康喜(九州大学)、馬淵哲也(九州大学)、宮島裕子(九州大学)、田代直明(九州大学)、内海泰弘(九州大学)、菱拓雄(九州大学)、榎木勉(九州大学)、矢部恒晶	2017.12	宮崎演習林におけるニホンジカ生息数推定方法間の比較	演習林研究発表会要旨集、20:24-25
津山幾太郎、石橋聡	2017.04	トドマツ人工林の好適地を環境要因から推定する	北海道森づくり研究成果発表会(平成29年)、:5
津山幾太郎、石橋聡	2017.07	トドマツ人工林の造林適地をマップ化する	森林総合研究所研究成果選集(平成29年版)、20-21

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
北尾光俊、原山尚徳、韓慶民、AGATHOKLEOUS Evgenios(学振PD)、上村章、古家直行、石橋聡	2018.03	冬季伐採にともなう春季の光阻害がトドマツ前生稚樹の成長に及ぼす影響	日本森林学会大会学術講演集、129:S14-4
KITAO Mitsutoshi(北尾光俊)、HARAYAMA Hisanori(原山尚徳)、HAN Qingmin(韓慶民)、AGATHOKLEOUS Evgenios(学振PD)、UEMURA Akira(上村章)、FURUYA Naoyuki(古家直行)、ISHIBASHI Satoshi(石橋聡)	2018.03	The role of springtime photoinhibition in the regeneration of Abies sachalinensis at the forest floor after removing canopy trees(上木伐採後のトドマツ前生稚樹の更新における春の光阻害の役割)	日本生態学会大会講演要旨集、65:S14-1
森本淳子(北海道大学)、梅林利弘(北海道大学)、堀田亘(北海道大学)、鈴木智(東京大学)、尾張敏章(東京大学)、井上貴央(北海道大学)、柴田英昭(北海道大学)、渋谷正人(北海道大学)、石橋聡(石橋聡)	2018.03	大規模風倒かく乱後の風倒木搬出が森林の炭素蓄積に与える長期的影響	日本生態学会大会講演要旨集、65:P3-222
石橋聡(石橋聡)	2018.03	東大雪天然林における風倒後60年間の動態	森林総合研究所研究報告、17(1):83-88
石橋聡、古家直行	2018.02	大正時代末期に天然更新したトドマツ一斉林の推移と現況	北方森林研究、66:83-84
石橋聡(石橋聡)	2018.01	十勝岳泥流跡	北方林業、69(1):53
渋谷正人(北海道大学)、石橋聡(石橋聡)	2017.11	洞爺丸台風による林分レベルでの被害パターンと生残木の動態	北方森林学会大会研究発表要旨、66:O-06
石橋聡(石橋聡)	2017.07	上芦別七夜橋	北方林業、68(3):41
石橋聡(石橋聡)	2017.04	藻岩原始林	北方林業、68(2):45
渋谷正人(北海道大学)、石橋聡(石橋聡)	2017.04	前生林の樹種構成が異なる天然林の風害後60年間の林分動態	北方林業、68(2):36-39
倉本恵生、津山幾太郎、橋本徹、石橋聡(石橋聡)、佐藤弘和(北海道立総合研究機構林業試験場)	2018.02	同一林分内の作設年代の異なる森林作業道上の植生発達	北方森林研究、66:23-25
倉本恵生、伊東宏樹、関剛、津山幾太郎、石橋聡(石橋聡)	2018.01	トドマツ人工林主伐後の重機による地表処理における処理幅と作業方向による作業効率と植生除去効果の違い	森林利用学会誌、33(1):5-13
山口岳広	2018.03	トドマツの幹・根系損傷から侵入した腐朽菌と腐朽の進展	日本森林学会大会学術講演集、129:296
山口岳広	2018.02	過去の伐採・搬出作業による攪乱がトドマツ人工林の腐朽被害に与える影響	北方森林研究、66:87-90
山口岳広	2017.11	北海道におけるニオイヒバ衰退枯死被害と関与が疑われる担子菌	樹木医学会大会講演要旨集、22:56

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
佐々木尚三、 <u>山田健</u> 、宗岡寛子	2018.03	ドローンによる路網把握と集材作業効率・林地影響の検討	日本森林学会大会学術講演集、129:P1-213
<u>山田健</u>	2017.06	海岸林を再生する植栽技術	グリーン・エイジ、522:4-7
<u>山田健</u>	2017.05	育林作業用ロボットの開発	機械化林業、762:1-8
<u>山田健</u> 、佐々木尚三、山口浩和、猪俣雄太、伊藤崇之(農林水産技術会議)	2018.03	津波被災海岸林再造成における植栽機械化の試み	日本森林学会大会学術講演集、129:236
<u>山田健</u> 、佐々木尚三、倉本恵生、上村章、 <u>原山尚徳</u> 、宇都木玄、斎藤丈寛(下川町)	2018.01	地拵え用クラッシャの作業性能と造林作業にもたらす効果	森林利用学会誌、33(1):67-71
山口浩和、 <u>山田健</u>	2018.02	スウェーデン・フィンランドにおける機械化造林作業の視察報告	機械化林業、771:1-7
猪俣雄太、伊藤崇之(農林水産技術会議事務局)、山口浩和、鹿島潤、 <u>山田健</u>	2017.11	コンテナ苗専用道具使用時の腰部への負荷	森林利用学会誌、32(4):187-195
倉本恵生、佐々木尚三、 <u>津山幾太郎</u> 、 <u>原山尚徳</u> 、上村章、 <u>山田健</u> 、宇都木玄、斎藤丈寛(下川町)	2018.03	北海道のカラマツ人工林伐跡における車両機地拵後の地表植生変化	日本森林学会大会学術講演集、129:219
<u>原山尚徳</u> 、上村章、 <u>北尾光俊</u> 、佐々木尚三、 <u>山田健</u> 、渡辺一郎(道総研林試)、齋藤隆実(森林総研PD)、宇都木玄	2018.03	クラッシャ地拵による下刈コスト削減効果	日本森林学会大会学術講演集、129:S1-7
<u>原山尚徳</u> 、上村章、 <u>津山幾太郎</u> 、佐々木尚三、 <u>山田健</u> 、渡辺一郎(道総研林試)、宇都木玄	2018.02	クラッシャ地拵による破砕物の量が下草繁茂に及ぼす影響	北方森林研究、66:73-76
旗生規(日本森林技術協会)、今富裕樹(東京農業大学)、鹿島潤、伊藤崇之(農林水産技術会議事務局)、猪俣雄太、山口浩和、 <u>山田健</u>	2017.04	コンテナ苗植栽作業および植栽器具の評価	森林利用学会誌、32(2):71-76
壁谷大介、宮本和樹、柴田章治(森林整備センター中部整備局)、清野陽介(森林整備センター宇都宮水源林整備事務所)、 <u>山田健</u> 、落合幸仁(元住友林業)、宇都木玄	2018.03	単一試験地に植栽されたスギ・コンテナ苗の活着・成長に対する種子供給地域の影響	関東森林研究、68(1):45-48
三浦覚、金指努(森林総研PD)、田野井慶太郎(東京大学)、福田研介(茨城県林業技術センター)、岩澤勝巳(千葉県森林研究所)、伊東諒祐(東京大学)、益守眞也(東京大学)、小林奈通子(東京大学)、 <u>伊東宏樹</u> 、二瓶直登(東京大学)、長倉淳子、平井敬三、中西友子(東京大学)	2018.03	コナラの放射性セシウム移行係数と土壌の交換性カリウムの関係	日本森林学会大会学術講演集、129:105

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
金指努(森林総研PD)、三浦覚、平井敬三、 <u>伊東宏樹</u> 、長倉淳子	2018.03	落葉広葉樹の萌芽枝・植栽苗木に含まれるセシウム137濃度の比較	「環境放射能」研究会プログラム、19:P-48
<u>伊東宏樹</u> 、 <u>関剛</u> 、 <u>津山幾太郎</u> 、飯田滋生	2018.02	樽前山山麓における洞爺丸台風による風倒後の針葉樹3種の更新	北方森林研究、66:59-62
<u>伊東宏樹</u> 、 <u>関剛</u> 、 <u>津山幾太郎</u> 、飯田滋生	2018.03	Long-term data on forest regeneration after catastrophic windthrow in Tomakomai, Hokkaido, northern Japan(苫小牧における大規模風倒後の森林再生の長期データ)	Ecological Research、33:283-283
<u>伊東宏樹</u> 、 <u>中西敦史</u> 、 <u>津山幾太郎</u> 、 <u>関剛</u> 、 <u>河原孝行</u>	2018.03	被度階級データのモデリングによる石狩川源流域風倒跡の植生回復過程の推定	日本生態学会大会講演要旨集、65:P3-026
<u>伊東宏樹</u>	2018.01	ナラ枯れ後の森林更新に対するシカの影響	広葉樹の利用と森林再生を考える～中山間地での広葉樹林の取り扱いについて～(森林総合研究所関西支所、89頁)、33
倉本恵生、 <u>伊東宏樹</u> 、 <u>関剛</u> 、 <u>津山幾太郎</u> 、 <u>石橋聡</u> (<u>石橋聡</u>)	2018.01	トマツ人工林主伐後の重機による地表処理における処理幅と作業方向による作業効率と植生除去効果の違い	森林利用学会誌、33(1):5-13
<u>伊東宏樹</u>	2018.01	奈良県大台ヶ原の森林とニホンジカ	北方林業、69(1):29-32
<u>伊東宏樹</u> 、 <u>関剛</u> 、 <u>津山幾太郎</u> 、飯田滋生	2017.11	樽前山山麓における洞爺丸台風による風倒後の針葉樹3種の更新	北方森林学会大会、66:P-10
<u>伊東宏樹</u> 、岸久司(龍ヶ崎バードウォッチングクラブ)	2017.09	市民データから推定した茨城県龍ヶ崎市のコジュリン繁殖期個体数	日本鳥学会大会講演要旨集(2017)、116
<u>伊東宏樹</u>	2017.08	ナラ枯れ跡ギャップに設置された防鹿柵内外での更新状況の比較	日本森林学会誌、99(4):172-175
<u>伊東宏樹</u>	2017.06	Rによる状態空間モデリング-dlmとKFASを用いて-	岩波データサイエンス(岩波書店、152頁)、6:32-47
長倉淳子、古澤仁美、 <u>伊藤江利子</u> 、 <u>橋本徹</u> 、相澤州平	2018.03	ウダイカンバ連年施肥林の落葉の養分濃度-施肥開始から17年間の変化-	日本森林学会大会学術講演集、129:227
<u>橋本徹</u>	2018.03	ナニワズの5年間の葉フェノロジー	日本生態学会大会講演要旨集、65:P3-065
<u>橋本徹</u>	2018.02	異なる3手法によって推定した光環境とトマツ実生の関係	北方森林研究、66:37-39
<u>伊藤江利子</u> 、 <u>橋本徹</u> 、相澤州平	2018.02	地がきカンバ更新地における表層土壌容積重の回復過程	北方森林研究、66:97-100
小野賢二、野口宏典、八木橋勉、安田幸生、 <u>橋本徹</u>	2017.08	土壌呼吸の長期連続観測による安比高原落葉広葉樹林における年間土壌呼吸量の動向	東北森林科学会大会講演要旨集、22:45
倉本恵生、 <u>津山幾太郎</u> 、 <u>橋本徹</u> 、 <u>石橋聡</u> (<u>石橋聡</u>)、佐藤弘和(北海道立総合研究機構林業試験場)	2018.02	同一林分内の作設年代の異なる森林作業道上の植生発達	北方森林研究、66:23-25
稲富素子(森林総研PD)、石塚成宏、酒井佳美、大曾根陽子(森林総研PD)、南光一樹、 <u>橋本徹</u> 、田中永晴、金子真司、三浦覚	2017.05	森林土壌炭素インベントリにおける枯死木データの基礎的解析	JpGU-AGU JointMeeting 2017、MIS19-P10

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
石塚成宏、金子真司、鶴田健二(森林総研PD)、橋本昌司、相澤州平、 <u>橋本徹</u> 、 <u>伊藤江利子</u> 、篠宮佳樹、野口享太郎、森下智陽、小野賢二、岡本透、酒井寿夫、鳥山淳平、酒井佳美、稲垣昌宏、片柳薫子(農研機構)、白戸康人(農研機構)、小原洋(農研機構)、神山和則(農研機構)、神田隆志(国際農研七)、井上美那(農研機構)、草場敬(農研機構)	2018.03	農地から森林への土地利用変化が土壌炭素量に与える影響—観測結果—	日本森林学会大会学術講演集、129:P2-187
<u>中西敦史</u> 、 <u>永光輝義</u> 、清水一(北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場)	2018.03	北海道海岸林におけるミズナラ・カシワ交雑帯の実態	日本森林学会大会学術講演集、129:S15-4
<u>永光輝義</u>	2018.01	日本の森林樹木の地理的遺伝構造(20) ケショウヤナギ(ヤナギ科ヤナギ属)	森林遺伝育種、7:17-23
直江将司、小池伸介(東京農工大学)、陀安一郎(総合地球環境学研究所)、加藤珠理、菊地賢、 <u>永光輝義</u> 、綱本良啓(東北大学)、長沼知子(東京農工大学)、正木隆	2018.03	標高方向の種子散布は山系によって異なるか:動物散布樹木サクラ類での検証	日本生態学会大会講演要旨集、65:P3-013
<u>永光輝義</u>	2017.11	Provenance variations in stem productivity of 30-year-old Japanese larch trees planted in northern and central Japan are associated with climatic conditions	森林遺伝育種学会大会講演要旨集、6:P13
<u>永光輝義</u>	2018.03	Genetic structure and potential environmental determinants of local genetic diversity in Japanese honeybees (<i>Apis cerana japonica</i>)(ニホンミツバチの遺伝構造と局所的な遺伝的多様性の潜在的環境要因)	日本生態学会大会講演要旨集、65:P2-199
<u>永光輝義</u> 、鈴木美季(山梨大学)、峰翔太郎(東京大学)、滝久智、加藤珠理、菊地賢、正木隆	2017.12	Effects of forest loss and fragmentation on pollen diets and provision mass of the mason bee, <i>Osmia cornifrons</i> , in central Japan(中央日本におけるマメコバチの花粉利用と貯食量に与える森林の喪失と断片化の影響)	Ecological Entomology、DOI: 10.1111/een.12494
安田美香(バードライフ・インターナショナル)、坂本佳子(国環研)、五箇公一(国環研)、 <u>永光輝義</u> 、滝久智	2017.04	Insecticide Susceptibility in Asian Honey Bees (<i>Apis cerana</i> (Hymenoptera: Apidae)) and Implications for Wild Honey Bees in Asia(アジアミツバチの農薬への感受性とアジアの野生ミツバチへの影響)	Journal of Economic Entomology、110: 447-452 DOI: 10.1093/jee/tox032
<u>SEKI Takeshi(関剛)</u>	2018.03	Influence of strong wind on the relationship between seed-cone production and height growth in <i>Abies sachalinensis</i> (強風がトドマツにおける球果生産と樹高成長との関係に及ぼす影響について)	日本生態学会大会講演要旨集、65:P3-076
<u>伊東宏樹</u> 、 <u>関剛</u> 、 <u>津山幾太郎</u> 、飯田滋生	2018.02	樽前山山麓における洞爺丸台風による風倒後の針葉樹3種の更新	北方森林研究、66:59-62
<u>伊東宏樹</u> 、 <u>関剛</u> 、 <u>津山幾太郎</u> 、飯田滋生	2018.03	Long-term data on forest regeneration after catastrophic windthrow in Tomakomai, Hokkaido, northern Japan(苫小牧における大規模風倒後の森林再生の長期データ)	Ecological Research、33:283-283
<u>伊東宏樹</u> 、 <u>中西敦史</u> 、 <u>津山幾太郎</u> 、 <u>関剛</u> 、 <u>河原孝行</u>	2018.03	被度階級データのモデリングによる石狩川源流域風倒跡の植生回復過程の推定	日本生態学会大会講演要旨集、65:P3-026
倉本恵生、 <u>伊東宏樹</u> 、 <u>関剛</u> 、 <u>津山幾太郎</u> 、 <u>石橋聡(石橋駿)</u>	2018.01	トドマツ人工林主伐後の重機による地表処理における処理幅と作業方向による作業効率と植生除去効果の違い	森林利用学会誌、33(1):5-13

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
<u>SEKI Takeshi(関剛)</u> 、SHIBUYA Masato(渋谷正人・北海道大学)、Andrej Boncina(リュブリャナ大学)	2017.12	Special feature: fir species and forests(特集: モミ属、及びその森林)	Journal of Forest Research、22(6):325
<u>伊東宏樹、関剛、津山幾太郎</u> 、飯田滋生	2017.11	樽前山麓における洞爺丸台風による風倒後の針葉樹3種の更新	北方森林学会大会、66:P-10
<u>北村系子</u>		ブナ最北限域に点在する隔離小集団の遺伝的多様性	日本生態学会大会講演要旨集、65:W12-3「自由集会」
<u>北村系子</u> 、後藤晋(東大)、石塚航(道総研)、内山憲太郎、 <u>津山幾太郎</u> 、久本洋子(東大)、種子田春彦(東大)		北海道トドマツ保護林のEST-SSRによる遺伝的多様性と分化	日本生態学会大会講演要旨集、65:P3-036
小林誠(十日町市立里山科学館)、斎藤均(黒松内町ブナセンター)、 <u>北村系子</u> 、並川寛司(北教大・札幌・生物)、松井哲哉		分布北限のブナ集団における葉・種子への被食圧の地理的分布	日本生態学会大会講演要旨集、65:P3-036
GOTO Susumu(後藤晋・東大)、KAJIYA-KANEGAE Hiromi(鐘ヶ江宏美・東大)、ISHIZUKA Wataru(石塚航・道総研)、 <u>KITAMURA Keiko(北村系子)</u> 、UENO Saneyoshi(上野真義)、HISAMOTO Yoko(久本洋子・東大)、KUDOH Hiroshi(工藤洋・京大)、YASUGI Masaki(八杉公基・基生研)、NAGANO Atsushi J.(長野淳・京大)、IWATA Hiroshi(岩田洋・東大)		Genetic mapping of local adaptation along the altitudinal gradient in <i>Abies sachalinensis</i> (トドマツの標高適応におけるQTLマッピング)	Tree Genetics & Genomes、13:104 DOI 10.1007/s11295-017-1191-3
<u>KITAMURA Keiko(北村系子)</u> 、NAMIKAWA Kanji(並川寛司・北教大札幌)、KAWAHARA Takayuki(河原孝行)、MATSUMOTO Asako(松本麻子)、Lerma San Jose-Maldia(フィリピン大)		Genetic structure of remnant <i>Quercus serrata</i> populations at the northernmost limit of their distribution in Japan(コナラ北限地帯の遺伝的構造)	Acta Phytotaxonomica et Geobotanica、68(1):1-15
<u>津山幾太郎、石橋聡</u>	2017.04	トドマツ人工林の好適地を環境要因から推定する	北海道森づくり研究成果発表会(平成29年)、:5
<u>津山幾太郎、石橋聡</u>	2017.07	トドマツ人工林の造林適地をマップ化する	森林総合研究所研究成果選集(平成29年版)、20-21
<u>津山幾太郎</u> 、来田和人(道総研林試道北支場)、 <u>原山尚徳</u>	2018.03	コンテナ苗はどのような条件で有効なのか? ~北海道の場合~	日本森林学会大会学術講演集、129:P2-086
<u>津山幾太郎</u> 、来田和人(道総研林試道北支場)、 <u>原山尚徳</u>	2018.02	北海道におけるコンテナ苗の有効性を検証する~植栽後の活着率と成長量から~	北方森林研究、66:69-72

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
Yun, Jong-Hak(National Institute of Ecology)、NAKAO Katsuhiko(中尾勝洋)、 TSUYAMA Ikutaro(津山幾太郎) 、MATSUI Tetsuya(松井哲哉)、Park Chan-Ho(National Institute of Biological Resources)、Lee Byoung-Yoon(National Institute of Biological Resources, Korea)、TANAKA Nobuyuki(田中信行・東京農業大学)	2018.03	Vulnerability of subalpine fir species to climate change: using species distribution modeling to assess the future efficiency of current protected areas in the Korean Peninsula(気候変動に対するモミの脆弱性: 種分布モデルを用いた韓半島における現在の保護区の将来への有効性)	Ecological Research、DOI 10.1007/s11284-018-1581-5
中西敦史 、山崎孝一(北海道森林管理局森林技術・支援センター)、井上純(北海道森林管理局森林技術・支援センター)、 津山幾太郎	2018.02	遠軽町丸瀬布国有林における低コスト造林技術の検証	北方森林研究、66:19-22
伊東宏樹 、 関剛 、 津山幾太郎 、飯田滋生	2018.02	樽前山山麓における洞爺丸台風による風倒後の針葉樹3種の更新	北方森林研究、66:59-62
伊東宏樹 、 関剛 、 津山幾太郎 、飯田滋生	2018.03	Long-term data on forest regeneration after catastrophic windthrow in Tomakomai, Hokkaido, northern Japan(苫小牧における大規模風倒後の森林再生の長期データ)	Ecological Research、33:283-283
伊東宏樹 、 中西敦史 、 津山幾太郎 、 関剛 、河原孝行	2018.01	被度階級データのモデリングによる石狩川源流域風倒跡の植生回復過程の推定	日本生態学会大会講演要旨集、65:P3-026
松井哲哉、田中信行(東京農大)、 津山幾太郎	2018.02	日本の寒帯・亜寒帯性針葉樹の分布と気候変動影響	生物の科学 遺伝、72:70-78
MATSUI Tetsuya(松井哲哉)、NAKAO Katsuhiko(中尾勝洋)、HIGA Motoki(比嘉基紀・高知大学)、 TSUYAMA Ikutaro(津山幾太郎) 、KOMINAMI Yuji(小南裕志)、YAGIHASHI Tsutomu(八木橋勉)、KOIDE Dai(小出大・森林総研PD)、TANAKA Nobuyuki(田中信行・東京農大)	2018.03	Potential impact of climate change on canopy tree species composition of cool-temperate forests in Japan using a multivariate classification tree model(多変量分類樹モデルを用いた日本の冷温帯林の種構成への温暖化影響評価)	Ecological Research、DOI: 10.1007/s11284-018-1576-2
倉本恵生、 佐々木尚三 、 津山幾太郎 、 原山尚徳 、 上村章 、 山田健 、宇都木玄、斎藤丈寛(下川町)	2018.02	北海道のカラマツ人工林伐跡における車両機地拵後の地表植生変化	日本森林学会大会学術講演集、129:219
倉本恵生、 津山幾太郎 、 橋本徹 、 石橋聰(石橋聡) 、佐藤弘和(北海道立総合研究機構林業試験場)	2018.01	同一林分内の作設年代の異なる森林作業道上の植生発達	北方森林研究、66:23-25
倉本恵生、 伊東宏樹 、 関剛 、 津山幾太郎 、 石橋聰(石橋聡)	2018.02	トマツ人工林主伐後の重機による地表処理における処理幅と作業方向による作業効率と植生除去効果の違い	森林利用学会誌、33(1):5-13
原山尚徳 、 上村章 、 津山幾太郎 、 佐々木尚三 、 山田健 、渡辺一郎(道総研林試)、宇都木玄	2018.02	クラッシュ地拵による破砕物の量が下草繁茂に及ぼす影響	北方森林研究、66:73-76

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
松井哲哉、中尾勝洋、高野(竹中)宏平(長野県環境保全研)、尾関雅章(長野県環境保全研)、堀田昌伸(長野県環境保全研)、須賀丈(長野県環境保全研)、浜田崇(長野県環境保全研)、栗林正俊(長野県環境保全研)、黒江美紗子(長野県環境保全研)、大塚孝一(長野県環境保全研)、松橋彩衣子(森林総研PD)、 津山幾太郎	2017.10	長野県の生態系影響・適応策評価技術開発	植生学会大会講演要旨集、22:72
MATSUI Tetsuya(松井哲哉)、YAGIHASHI Tsutomu(八木橋勉)、NAKAO Katsuhiko(中尾勝洋)、 TSUYAMA Ikutarou(津山幾太郎) 、HIGA Motoki(比嘉基紀・高知大学)、TANAKA Nobuyuki(田中信行・東京農業大学)	2017.09	Climate change impact on Fagus crenata forests and adaptation measures. (ブナ林への温暖化影響と適応策の手法)	北京大学公開セミナー、2
堀田昌伸(長野県環境保全研究所)、高野宏平(環境保全研究所)、 津山幾太郎 、比嘉基紀(高知大)、尾関雅章(環境保全研究所)、中尾勝洋、松井哲哉、畑中健一郎(長野県自然保護課)	2017.09	登山者情報をもとにしたライチョウの生息状況把握の有効性	日本鳥学会大会講演要旨集(2017)、P068
TSUYAMA Ikutarou(津山幾太郎) 、HIGA Motoki(比嘉基紀・高知大学)、NAKAO Katsuhiko(中尾勝洋)、MATSUI Tetsuya(松井哲哉)、HORIYAMA Masahiro(堀川真弘・トヨタ自動車)、TANAKA Nobuyuki(田中信行・東京農業大学)	2017.07	How will subalpine conifer distributions be affected by climate change in Japan?(日本の針葉樹は気候変動でどのように分布が影響を受けるのか?)	IBC2017; China、T1-05-5
堀田昌伸(長野県環境保全研)、高野宏平(長野県環境保全研)、 津山幾太郎 、比嘉基紀(高知大)、尾関雅章(長野県環境保全研)、中尾勝洋、松井哲哉、竹内祥生(信州大)、畑中健一郎(長野県自然保護課)	2018.03	山小屋や登山者によるライチョウの生息状況把握	日本生態学会大会講演要旨集、65:P2-284
NAKAO Katsuhiko(中尾勝洋)、HIGA Motoki(比嘉基紀・高知大学)、 TSUYAMA Ikutarou(津山幾太郎) 、Lin C-TNCU(信義大)、Chiou C(台北大)、Chen T(宜蘭大)、MATSUI Tetsuya(松井哲哉)	2017.07	Climate change impact on the potential habitats of dominant evergreen broad-leaved tree species in the Taiwan-Japan archipelago.(台湾-日本列島の常緑広葉樹林の優占種の潜在生育域における気候変動影響について)	IBC2017; ShenZhen China、T3-02-4
NAKAO Katsuhiko(中尾勝洋)、 TSUYAMA Ikutarou(津山幾太郎) 、MATSUI Tetsuya(松井哲哉)、HIGA Motoki(比嘉基紀・高知大学)	2017.08	Assessing the limits of protected areas relocations as climate change adaptive options for conserving Japanese tree species under three RCPs.(3つのRCPシナリオ下での日本の樹木種の保全のための気候変動適応策としての保護区の移動の限界を探索)	ESA Annual Meeting; Portland OR USA(2017)、PS68-53

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
北村系子 、後藤晋(東大)、石塚航(道総研)、内山憲太郎、 津山幾太郎 、久本洋子(東大)、種子田春彦(東大)	2018.03	北海道トドマツ保護林のEST-SSRによる遺伝的多様性と分化	日本生態学会大会講演要旨集、65:PR0049
中西敦史 、山寄孝一(北海道森林管理局森林技術・支援センター)、井上純(北海道森林管理局森林技術・支援センター)、 津山幾太郎	2017.11	遠軽町丸瀬布国有林における低コスト造林技術の検証	北方森林学会大会プログラム、66:0-05
伊東宏樹 、 関剛 、 津山幾太郎 、飯田滋生	2017.11	樽前山山麓における洞爺丸台風による風倒後の針葉樹3種の更新	北方森林学会大会、66:P-10
中西敦史 、 永光輝義 、清水一(北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場)	2018.03	北海道海岸林におけるミズナラ・カシワ交雑帯の実態	日本森林学会大会学術講演集、129:S15-4
中西敦史 、山寄孝一(北海道森林管理局森林技術・支援センター)、井上純(北海道森林管理局森林技術・支援センター)、 津山幾太郎	2018.02	遠軽町丸瀬布国有林における低コスト造林技術の検証	北方森林研究、66:19-22
伊東宏樹 、 中西敦史 、 津山幾太郎 、 関剛 、 河原孝行	2018.03	被度階級データのモデリングによる石狩川源流域風倒跡の植生回復過程の推定	日本生態学会大会講演要旨集、65:P3-026
花岡創、松下通也、 中西敦史 、斎藤秀之(北海道大学)、福田陽子	2018.03	種間雑種の形態形質は両親種と比較して中間的か? カバノキ属3種を用いた検証	日本森林学会大会学術講演集、129:S15-1
中西敦史	2017.09	Ecological and genetic studies on a warm temperate evergreen broad-leaved forest in the Tatera research site, Southwestern Japan.(龍良山調査地における照葉樹林の生態学および遺伝学的研究)	Workshop proceedings:2017 International Workshop on Lessons Learnt and Challenges from Forest Long-term Ecological Research (LTER) in
中西敦史 、山寄孝一(北海道森林管理局森林技術・支援センター)、井上純(北海道森林管理局森林技術・支援センター)、 津山幾太郎	2017.11	遠軽町丸瀬布国有林における低コスト造林技術の検証	北方森林学会大会プログラム、66:O-05
深山貴文、飛田博順、内山憲太郎、矢崎健一、上野真義、齋藤隆実、松本麻子、 北尾光俊 、伊豆田猛(東京農工大)	2018.03	遺伝子プールが異なるスギ3品種のモノテルペン放出特性への長期オゾン暴露影響の比較	日本農業気象学会75周年記念大会講演要旨集、198
北尾光俊 、 原山尚徳 、韓慶民、 AGATHOKLEOUS Evgenios(学振PD) 、上村章、 古家直行 、 石橋聡	2018.03	冬季伐採にともなう春季の光阻害がトドマツ前生稚樹の成長に及ぼす影響	日本森林学会大会学術講演集、129:S14-4
KITAO Mitsutoshi(北尾光俊) 、 HARAYAMA Hisanori(原山尚徳) 、HAN Qingmin(韓慶民)、 AGATHOKLEOUS Evgenios(学振PD) 、UEMURA Akira(上村章)、 FURUYA Naoyuki(古家直行) 、 ISHIBASHI Satoshi(石橋聡)	2018.03	The role of springtime photoinhibition in the regeneration of Abies sachalinensis at the forest floor after removing canopy trees(上木伐採後のトドマツ前生稚樹の更新における春の光阻害の役割)	日本生態学会大会講演要旨集、65:S14-1

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
<u>AGATHOKLEOUS Evgenios(学振PD)</u> 、 <u>KITAO Mitsutoshi(北尾光俊)</u> 、KINOSE Yoshiyuki(黄瀬佳之・茨城大)	2018.03	A review study on ozone phytotoxicity metrics for setting critical levels in Asia(アジアでの臨界値設定のためのオゾン植物障害評価基準に関するレビュー)	Asian Journal of Atmospheric Environment、12(1):1-16
韓慶民、宇都木玄、 <u>原山尚徳</u> 、上村章、 <u>北尾光俊</u>	2017.07	木質バイオマス資源作物としてのヤナギ栽培の実用化	森林総合研究所研究成果選集(平成29年版)、26-27
<u>KITAO Mitsutoshi(北尾光俊)</u> 、KITAOKA Satoshi(北岡哲・森林総研非常勤職員)、 <u>HARAYAMA Hisanori(原山尚徳)</u> 、TOBITA Hiroyuki(飛田博順)、 <u>Evgenios Agathokleous(学振PD)</u> 、UTSUGI Hajime(宇都木玄)	2018.01	Canopy nitrogen distribution is optimized to prevent photoinhibition throughout the canopy during sun flecks(樹冠葉の窒素分布は木漏れ日による光阻害を防ぐために最適化されている)	Scientific Reports、8:503
<u>AGATHOKLEOUS Evgenios(学振PD)</u> 、PAOLETTI Elena(イタリア学会)、MANNING William J.(マサチューセッツ大学)、 <u>KITAO Mitsutoshi(北尾光俊)</u> 、SAITANIS Costas J.(アテネ農業大学)、KOIKE Takayoshi(小池孝良・北海道大学)	2018.01	High doses of ethylenediurea (EDU) as soil drenches did not increase leaf N content or cause phytotoxicity in willow grown in fertile soil(土壌へのEDUの高付加は、肥沃な土壌で生育したヤナギの葉窒素含量を増加させず、障害も引き起こさない)	Ecotoxicology and Environmental Safety、147:574-584
<u>原山尚徳</u> 、上村章、 <u>北尾光俊</u> 、 <u>佐々木尚三</u> 、 <u>山田健</u> 、渡辺一郎(道総研林試)、齋藤隆実(森林総研PD)、宇都木玄	2018.03	クラッシュ地拵による下刈コスト削減効果	日本森林学会大会学術講演集、129:S1-7
小笠真由美、飛田博順、矢崎健一、田中(小田)あゆみ(森林総研PD)、齋藤隆実(森林総研PD)、 <u>北尾光俊</u> 、宇都木玄	2018.03	液肥濃度と灌水頻度がスギコンテナ苗の成長と生理特性に与える影響	日本森林学会大会学術講演集、129:PR0090
<u>AGATHOKLEOUS Evgenios(学振PD)</u> 、 <u>KITAO Mitsutoshi(北尾光俊)</u> 、SAITO Hideyuki(齋藤秀之・北海道大学)、 <u>HARAYAMA Hisanori(原山尚徳)</u> 、UEMURA Akira(上村章)、KOIKE Takayoshi(小池孝良・北海道大学)	2017.10	Promoting abiotic stress tolerance of container-grown seedlings by inoculating ectomycorrhizal fungi(外生菌接種によるコンテナ苗の環境耐性向上)	IUFRO Tokyo 2017 Programme and Abstracts, Actions for sustainable forest ecosystems under air pollution and climate change、71
YAZAKI Kenichi(矢崎健一)、TAKANASHI Takuma(高梨琢磨)、KANZAKI Natsumi(神崎菜摘)、KOMATSU Masabumi(小松雅史)、LEVIA, Delphis F(Delaware Univ)、KABEYA Daisuke(壁谷大介)、TOBITA Hiroyuki(飛田博順)、 <u>KITAO Mitsutoshi(北尾光俊)</u> 、ISHIDA Atsushi(石田厚・京都大学)	2017.12	Pine wilt disease causes cavitation around the resin canals and irrecoverable xylem conduit dysfunction(松枯れは樹脂道周辺のキャビテーションと回復不能な通水阻害を引き起こす)	Journal of Experimental Botany、DOI:10.1093/jxb/erx417

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
<u>KITAO Mitsutoshi</u> (北尾光俊)、TOBITA Hiroyuki(飛田博順)、YAZAKI Kenichi(矢崎健一)、KITAOKA Satoshi(北岡哲・森林総研非常勤職員)、 <u>AGATHOKLEOUS Evgenios</u> (学振PD)、KOIKE Takayoshi(小池孝良・北海道大学)	2017.10	Plants rigidly regulate excessive energy production under various environmental stresses(植物は様々な環境ストレス下で過剰なエネルギー生成を厳密に制御している)	IUFRO Tokyo 2017 Programme and Abstracts, Actions for sustainable forest ecosystems under air pollution and climate change、38
<u>KITAO Mitsutoshi</u> (北尾光俊)、 <u>HARAYAMA Hisanori</u> (原山尚徳)、UEMURA Akira(上村章)	2017.11	A practical approach to estimate diffusional leakages of leaf chamber of open gas exchange systems using intact leaves(開放型ガス交換システムの個葉チャンパー拡散リークを生葉を用いて推定する実用的手法)	Plant, Cell and Environment、40(11):2870-2874
TOBITA Hiroyuki(飛田博順)、UEMURA Akira(上村章)、KITAOKA Satoshi(北岡哲・森林総研非常勤職員)、 <u>KITAO Mitsutoshi</u> (北尾光俊)、UTSUGI Hajime(宇都木玄)	2017.10	Effects of soil drought, elevated CO ₂ , and phosphorus deficiency on photoinhibition in <i>Alnus</i> species.(ハンノキ属2樹種の光阻害感受性に及ぼす、土壌乾燥、高CO ₂ 、土壌リン酸供給量不足の影響)	IUFRO Tokyo 2017 Programme and Abstracts, Actions for sustainable forest ecosystems under air pollution and climate change、87
長倉淳子、古澤仁美、 <u>伊藤江利子</u> 、 <u>橋本徹</u> 、相澤州平	2018.03	ウダイカンバ連年施肥林の落葉の養分濃度-施肥開始から17年間の変化-	日本森林学会大会学術講演集、129:227
真坂一彦(北海道立総合研究機構)、 <u>伊藤江利子</u>	2018.03	北海道太平洋岸の海霧を考慮した気候的乾湿度に対するカシワの環境応答	日本森林学会大会学術講演集、129:P2-179
<u>伊藤江利子</u> 、Chann Sophal(カンボジア森林局)、Tieth Bora(カンボジア森林局)、 <u>古家直行</u> 、大貫靖浩、飯田真一、清水貴範、玉井幸治、壁谷直記、八木貴信、清水晃	2018.03	落葉フタバガキ林で共存するTerminalia alataのフェノロジー異型	日本生態学会大会講演要旨集、65:P3-064
<u>伊藤江利子</u> 、 <u>橋本徹</u> 、相澤州平	2018.02	地がきカンバ更新地における表層土壌容積重の回復過程	北方森林研究、66:97-100
石塚成宏、金子真司、鶴田健二(森林総研PD)、橋本昌司、相澤州平、 <u>橋本徹</u> 、 <u>伊藤江利子</u> 、篠宮佳樹、野口享太郎、森下智陽、小野賢二、岡本透、酒井寿夫、鳥山淳平、酒井佳美、稲垣昌宏、片柳薫子(農研機構)、白戸康人(農研機構)、小原洋(農研機構)、神山和則(農研機構)、神田隆志(国際農研セ)、井上美那(農研機構)、草場敬(農研機構)	2018.03	農地から森林への土地利用変化が土壌炭素量に与える影響-観測結果-	日本森林学会大会学術講演集、129:P2-187
HAN Qingmin(韓慶民)、 <u>HARAYAMA Hisanori</u> (原山尚徳)、UEMURA Akira(上村章)、 <u>ITO Eriko</u> (伊藤江利子)、UTSUGI Hajime(宇都木玄)	2017.04	The effect of the planting depth of cuttings on biomass of short rotation willow(挿し穂の挿し付ける深さが短伐期ヤナギの初期生産に及ぼす影響)	Journal of Forest Research、22(2):131-134

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
<u>ITO Eriko(伊藤江利子)</u> 、Sophal Chann(カンボジア森林局)、Bora Tith(カンボジア森林局)、Samkol Keth(カンボジア森林局)、Chandararity Ly(カンボジア森林局)、Phallaphearaoth Op(カンボジア森林局)、 <u>FURUYA Naoyuki(古家直行)</u> 、OHNUKI Yasuhiro(大貫靖浩)、IIDA Shin'ichi(飯田真一)、SHIMIZU Takanori(清水貴範)、TAMAI Koji(玉井幸治)、KABEYA Naoki(壁谷直記)、YAGI Takanobu(八木貴信)、SHIMIZU Akira(清水晃)	2017.08	Two phenological variants of <i>Terminalia alata</i> coexist in a dry dipterocarp forest(落葉フタバガキ林で共存する <i>Terminalia alata</i> の2つのフェノロジー異型)	Plant Species Biology、10.1111/1442-1984.12180
<u>ITO Eriko(伊藤江利子)</u> 、 <u>FURUYA Naoyuki(古家直行)</u> 、TORIYAMA Jumpei(鳥山淳平)、OHNUKI Yasuhiro(大貫靖浩)、KIYONO Yoshiyuki(清野嘉之)、ARAKI Makoto(荒木誠)、Heng Sokh(カンボジア森林局)、Sophal CHANN(カンボジア森林局)、Saret Khorn(カンボジア森林局)、Vanna Samreth(カンボジア森林局)、Thea So(カンボジア森林局)、Bora TITH(カンボジア森林局)、Samkol KETH(カンボジア森林局)、Chandararity LY(カンボジア森林局)、Phallaphearaoth OP(カンボジア森林局)、MONDA Yukako(門田有佳子・京都大)、KANZAKI Mamoru(神崎護・京都大)	2017.06	Stand carbon dynamics in a dry Cambodian dipterocarp forest with seasonally flooded sandy soils .(季節的に冠水する砂地土壤に生育するカンボジア乾燥フタバガキ林における林分炭素動態)	Cambodian Journal of Natural history、2017(1):109-127
津山幾太郎、来田和人(道総研林試道北支場)、 <u>原山尚徳</u>	2018.03	コンテナ苗はどのような条件で有効なのか?～北海道の場合～	日本森林学会大会学術講演集、129:P2-086
津山幾太郎、来田和人(道総研林試道北支場)、 <u>原山尚徳</u>	2018.02	北海道におけるコンテナ苗の有効性を検証する～植栽後の活着率と成長量から～	北方森林研究、66:69-72
上村章、 <u>原山尚徳</u>	2018.03	異なるコンテナで育てた苗木の植栽後の成長	日本森林学会大会学術講演集、129:257
北尾光俊、 <u>原山尚徳</u> 、韓慶民、 <u>AGATHOKLEOUS Evgenios(学振PD)</u> 、上村章、 <u>古家直行</u> 、 <u>石橋聡</u>	2018.03	冬季伐採にともなう春季の光阻害がトドマツ前生稚樹の成長に及ぼす影響	日本森林学会大会学術講演集、129:S14-4
<u>KITAO Mitsutoshi(北尾光俊)</u> 、 <u>HARAYAMA Hisanori(原山尚徳)</u> 、HAN Qingmin(韓慶民)、 <u>AGATHOKLEOUS Evgenios(学振PD)</u> 、UEMURA Akira(上村章)、 <u>FURUYA Naoyuki(古家直行)</u> 、 <u>ISHIBASHI Satoshi(石橋聡)</u>	2018.03	The role of springtime photoinhibition in the regeneration of <i>Abies sachalinensis</i> at the forest floor after removing canopy trees(上木伐採後のトドマツ前生稚樹の更新における春の光阻害の役割)	日本生態学会大会講演要旨集、65:S14-1

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
山田健、佐々木尚三、倉本恵生、上村章、原山尚徳、宇都木玄、斎藤丈寛(下川町)	2018.01	地拵え用クラッシャの作業性能と造林作業にもたらす効果	森林利用学会誌、33(1):67-71
原山尚徳	2018.01	造林作業の低コスト化	北の森だより、18:5
倉本恵生、佐々木尚三、津山幾太郎、原山尚徳、上村章、山田健、宇都木玄、斎藤丈寛(下川町)	2018.03	北海道のカラマツ人工林伐跡における車両機地拵後の地表植生変化	日本森林学会大会学術講演集、129:219
韓慶民、宇都木玄、原山尚徳、上村章、北尾光俊	2017.07	木質バイオマス資源作物としてのヤナギ栽培の実用化	森林総合研究所研究成果選集(平成29年版)、26-27
KITAO Mitsutoshi(北尾光俊)、KITAOKA Satoshi(北岡哲・森林総研非常勤職員)、HARAYAMA Hisanori(原山尚徳)、TOBITA Hiroyuki(飛田博順)、Evgenios Agathokleous(学振PD)、UTSUGI Hajime(宇都木玄)	2018.01	Canopy nitrogen distribution is optimized to prevent photoinhibition throughout the canopy during sun flecks(樹冠葉の窒素分布は木漏れ日による光阻害を防ぐために最適化されている)	Scientific Reports、8:503
原山尚徳、上村章、北尾光俊、佐々木尚三、山田健、渡辺一郎(道総研林試)、斎藤隆実(森林総研PD)、宇都木玄	2018.03	クラッシャ地拵による下刈コスト削減効果	日本森林学会大会学術講演集、129:S1-7
原山尚徳	2018.03	カラマツ・トドマツ苗の土壌乾燥に対する通水およびガス交換特性の反応	日本生態学会大会講演要旨集、65:P3-074
原山尚徳、上村章、津山幾太郎、佐々木尚三、山田健、渡辺一郎(道総研林試)、宇都木玄	2018.02	クラッシャ地拵による破砕物の量が下草繁茂に及ぼす影響	北方森林研究、66:73-76
AGATHOKLEOUS Evgenios(学振PD)、KITAO Mitsutoshi(北尾光俊)、SAITO Hideyuki(齋藤秀之・北海道大学)、HARAYAMA Hisanori(原山尚徳)、UEMURA Akira(上村章)、KOIKE Takayoshi(小池孝良・北海道大学)	2017.10	Promoting abiotic stress tolerance of container-grown seedlings by inoculating ectomycorrhizal fungi(外生菌接種によるコンテナ苗の環境耐性向上)	IUFRO Tokyo 2017 Programme and Abstracts, Actions for sustainable forest ecosystems under air pollution and climate change、71
宇都木玄、原山尚徳、上村章	2018.03	持続的な林業生産を得るために一システムとしての再造林の考え方の重要性ー	日本森林学会大会学術講演集、129:P2-087
宇都木玄、原山尚徳、上村章	2017.06	再造林に向けた低コスト林業への挑戦	森林科学、80:2-5
KITAO Mitsutoshi(北尾光俊)、HARAYAMA Hisanori(原山尚徳)、UEMURA Akira(上村章)	2017.11	A practical approach to estimate diffusional leakages of leaf chamber of open gas exchange systems using intact leaves(開放型ガス交換システムの個葉チャンパー拡散リークを生葉を用いて推定する実用的手法)	Plant, Cell and Environment、40(11):2870-2874
HAN Qingmin(韓慶民)、HARAYAMA Hisanori(原山尚徳)、UEMURA Akira(上村章)、ITO Eriko(伊藤江利子)、UTSUGI Hajime(宇都木玄)	2017.04	The effect of the planting depth of cuttings on biomass of short rotation willow(挿し穂の挿し付ける深さが短伐期ヤナギの初期生産に及ぼす影響)	Journal of Forest Research、22(2):131-134

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
<u>梅村光俊</u> 、谷川東子	2018.03	モウソウチクのリターからの元素溶脱と洗浄方法の検討	日本生態学会大会講演要旨集、65:P2-319
<u>山野井克己</u> 、 <u>溝口康子</u> 、深山貴文、高梨聡、安田幸生、小南裕志、北村兼三、宮田明(農研機構)、金元植(農研機構)、小野圭介(農研機構)、村山昌平(産総研)、前田高尚(産総研)、石戸井重之(産総研)、三枝信子(国環研)、高橋善幸(国環研)	2017.07	センサーネットワーク化と自動解析化による陸域生態系の炭素循環変動把握の精緻化に関する研究	環境省地球環境保全試験研究費終了成果報告書(平成28年度)、:55
北村兼三、萩野裕章、 <u>山野井克己</u> 、黒川潮、壁谷直記	2017.12	鹿北フラックス観測サイトにおけるスギの生物季節の把握	森林総合研究所九州支所年報、29:12-13
<u>山野井克己</u> 、 <u>溝口康子</u>	2018.03	UAVを用いた森林での気温分布の測定	日本農業気象学会75周年記念大会講演要旨集、162
<u>山野井克己</u> 、 <u>溝口康子</u> 、大谷義一	2018.02	森林でのタワー観測ネットワークの構築と長期モニタリング-FFPRI FluxNetの例を中心に-	JapanFlux10周年記念集会口頭発表要旨、1
<u>山野井克己</u> 、 <u>溝口康子</u>	2018.03	森林のCO2吸収量に対する林床ササの寄与	日本農業気象学会75周年記念大会講演要旨集、130
<u>山野井克己</u> 、 <u>溝口康子</u>	2018.02	札幌近郊落葉広葉樹林におけるCO2吸収量15年の変化	JapanFlux10周年記念集会ポスター発表要旨、4
<u>溝口康子</u> 、宇都木玄、 <u>山野井克己</u>	2018.02	札幌市郊外落葉広葉樹林における台風攪乱後の現存量変化	北方森林研究、66:77-78
加藤和輝(北海道大学)、下山宏(北海道大学)、 <u>山野井克己</u> 、 <u>溝口康子</u> 、渡辺力(北海道大学)	2017.09	積雪上の気温に対する森林の影響	雪氷研究大会(2017・十日町)講演要旨集、:234
尾関俊浩(北海道教育大学)、荒川逸人(野外科)、八久保晶弘(北見工業大学)、原田裕介(土木研究所)、岩花剛(アラスカ大学)、兒玉裕二(国立極地研究所)、中村一樹(防災科学技術研究所)、榊原大貴(北海道大学)、榊原健一(北海道医療大学)、澤柿教伸(法政大学)、下山宏(北海道大学)、杉山慎(北海道大学)、 <u>山野井克己</u> 、山口悟(防災科学技術研究所)、秋田谷英次(NPO雪氷ネットワーク)	2017.09	2007~2017年に観測した北海道の表層雪崩における弱層の特徴-北海道支部雪氷災害調査チームの10年間の調査記録-	雪氷研究大会(十日町)講演要旨集(2017)、:214
<u>山野井克己</u> 、 <u>溝口康子</u> 、安田幸生、高梨聡、深山貴文、小南裕志、北村兼三	2017.07	センサーネットワークによる森林のCO2吸収量の高精度観測と長期モニタリングデータの活用	森林総合研究所研究成果選集(平成29年版)、12-13
<u>溝口康子</u> 、宇都木玄、 <u>山野井克己</u>	2017.11	札幌市郊外落葉広葉樹林における台風攪乱後の現存量変化	北方森林学会大会プログラム、66:P-22

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
山野井克己、溝口康子、深山貴文、高梨聡、安田幸生、小南裕志、北村兼三、宮田明(農研機構)、金元植(農研機構)、小野圭介(農研機構)、村山昌平(産総研)、前田高尚(産総研)、石戸井重之(産総研)、三枝信子(国環研)、高橋善幸(国環研)	2017.07	センサーネットワーク化と自動解析化による陸域生態系の炭素循環変動把握の精緻化に関する研究	環境省地球環境保全試験研究費終了成果報告書(平成28年度)、:55
ICHII Kazuhito(市井和仁・海洋研究開発機構・国立環境研究所)、UEYAMA Masahito(植山雅仁・大阪府立大学)、KONDO Masayuki(近藤雅征・海洋研究開発機構)、SAIGUSA Nobuko(三枝信子・国立環境研究所)、Joon KIM(Seoul National University, Korea)、Ma. Carmelita Alberto(International Rice Research Institute, Philippines)、Jonas Ardo(Lund University, Sweden)、Eugenie S. Euskirchen(University of Alaska, USA)、Minseok Kang(National Center for AgroMeteorology, Korea)、HIRANO Takashi(平野高司・北海道大学)、Joanna Joiner(NASA, USA)、KOBAYASHI Hideki(小林秀樹・海洋研究開発機構)、Luca Beletti Marchesini(University Amsterdam, Netherlands)、Lutz Merbold(International Livestock Research Institute, Kenya)、MIYATA Akira(宮田明・農業食品産業技術総合研究機構)、SAITOH M. Taku(斎藤琢・岐阜大学)、TAKAGI Kentaro(高木健太郎・北海道大学)、Andrej Varlagin(Severtsov Institute of Ecology and Evolution RAS, Russia)、M. Sydonia Bret-	2017.04	New data-driven estimation of terrestrial CO2 fluxes in Asia using a standardized database of eddy covariance measurements, remote sensing data, and support vector regression.(渦相関測定、リモートセンシングデータ、およびサポートベクター回帰などの標準化されたデータベースを使用したアジアにおける陸域二酸化炭素フラックスのデータを重視した新たな推定)	Journal of Geophysical Research: Biogeosciences、122(4):767-795、DOI:10.1002/2016JG003640

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き) 発表年月 発表表題			発表書誌情報(書誌名、巻号、頁)
Harte(University of Alaska, USA)、KITAMURA Kenzo(北村兼三)、KOSUGI Yoshiko(小杉緑子・京都大学)、KOTANI Ayumi(小谷亜由美・名古屋大学)、Kireet Kumar(National Institute of Himalayan Environment and Sustainable Development, India)、Sheng-Gong Li(Chinese Academy of Sciences, China)、MACHIMURA Takashi(町村尚・大阪大学)、MATSUURA Yojiro(松浦陽次郎)、 MIZOGUCHI Yasuko(溝口康子) 、OHTA Takeshi(太田岳史・名古屋大学)、Sandipan Mukherjee(National Institute of Himalayan Environment and Sustainable Development, India)、YANAGI Yuji(柳裕二・海洋研究開発機構)、YASUDA Yukio(安田幸生)、Yiping Zhang(Chinese Academy of Sciences, China)、Fenghua Zhao(Chinese Academy of Sciences, China)			
山野井克己、溝口康子	2018.03	UAVを用いた森林での気温分布の測定	日本農業気象学会75周年記念大会講演要旨集、162
山野井克己、溝口康子 、大谷義一	2018.02	森林でのタワー観測ネットワークの構築と長期モニタリング-FFPRI FluxNetの例を中心に-	JapanFlux10周年記念集会口頭発表要旨、1
溝口康子、山野井克己	2018.03	森林のCO2吸収量に対する林床ササの寄与	日本農業気象学会75周年記念大会講演要旨集、130
溝口康子 、高梨聡、大谷義一	2018.02	富士山麓アカマツ林におけるCO2吸収量15年の変化	JapanFlux10周年記念集会ポスター発表要旨、5
溝口康子、山野井克己	2018.02	札幌近郊落葉広葉樹林におけるCO2吸収量15年の変化	JapanFlux10周年記念集会ポスター発表要旨、4
溝口康子 、宇都木玄、 山野井克己	2018.02	札幌市郊外落葉広葉樹林における台風攪乱後の現存量変化	北方森林研究、66:77-78
加藤和輝(北海道大学)、下山宏(北海道大学)、 山野井克己 、 溝口康子 、渡辺力(北海道大学)	2017.09	積雪上の気温に対する森林の影響	雪氷研究大会(2017・十日町)講演要旨集、:234
山野井克己 、 溝口康子 、安田幸生、高梨聡、深山貴文、小南裕志、北村兼三	2017.07	センサーネットワークによる森林のCO2吸収量の高精度観測と長期モニタリングデータの活用	森林総合研究所研究成果選集(平成29年版)、12-13
溝口康子 、宇都木玄、 山野井克己	2017.11	センサーネットワークによる森林のCO2吸収量の高精度観測と長期モニタリングデータの活用	北方森林学会大会プログラム、66:P-22

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
KUBOTA Tayoko(久保田多子)、TSUBOYAMA Yoshio(坪山良夫)、 <u>NOBUHIRO Tatsuhiko(延廣竜彦)</u>	2018.03	Effects of thinning on canopy interception loss, evapotranspiration, and runoff in a small headwater Chamaecyparis obtusa catchment in Hitachi Ohta Experimental Watershed in Japan(常陸太田試験地内の源頭部小流域における間伐が樹冠遮断量、蒸発散量および流出量に与える影響)	Bulletin of the Forestry and Forest Products Research Institute(森林総合研究所研究報告)、17(1):63-73
IIDA Shin'ichi(飯田真一)、LEVIA Delphis F.(アメリカデラウェア大学)、SHIMIZU Akira(清水晃)、SHIMIZU Takanori(清水貴範)、TAMAI Koji(玉井幸治)、 <u>NOBUHIRO Tatsuhiko(延廣竜彦)</u> 、KABEYA Naoki(壁谷直記)、NOGUCHI Shoji(野口正二)、SAWANO Shinji(澤野真治)、ARAKI Makoto(荒木誠)	2017.05	Intrastorm scale rainfall interception dynamics in a mature coniferous forest stand (針葉樹壮齢林における降雨中の遮断の動態)	Journal of Hydrology、548:770-783
<u>石橋靖幸</u>	2018.03	MHC遺伝子の多様性を失った西日本のクマ	BEARS JAPAN、18(3):19-20
<u>石橋靖幸</u>	2017.07	四国のツキノワグマの遺伝的多様性の減少	特定非営利活動法人四国自然科学研究センター News Letter、57:6-8
天野一葉(琵琶湖博物館)、 <u>石橋靖幸</u> 、東條一史、中村秀哉(常磐大短大)、上野吉雄(日本鳥類標識協会)、日比野政彦(日本鳥類標識協会)、真野徹(日本鳥類標識協会)	2017.09	外来種ソウシチョウの分布拡大と集団の遺伝的構造	日本鳥学会大会講演要旨集(2017)、P109
<u>石原誠</u> 、小河誠司(元福岡県森林林業技術センター)	2017.04	ハーデンベルギア斑点細菌病(新称)について	日本植物病理学会大会プログラム・講演要旨予稿集(平成29年度)、P136、510
<u>石原誠</u>	2018.02	広葉樹造林に潜む未知のリスク	北の国・森林づくり技術交流発表会 特別発表 発表要旨(平成29年度)、 www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/square/topics/2018/attach/pdf/180207-29.pdf
<u>石原誠</u> 、西井俊太郎(京都府立大学)、池田武文(京都府立大学)	2018.03	紫外線によるソメイシノ病の発病抑制効果	日本森林学会大会学術講演集、129:M1
<u>石原誠</u>	2018.02	ヤナギ超短伐期施業時の獣害の回避法(Ⅱ)ーヤナギ柵によるエゾシカ摂食害の回避と切り払い後の萌芽発生による誘引効果についてー	北方森林研究、66:85-86
佐橋憲生、秋庭満輝、 <u>石原誠</u> 、太田祐子(日本大学)、升屋勇人、服部力、島田律子(東京都)、佐藤豊三(農研機構遺資セ)	2017.06	わが国における南根腐病の発生現状と宿主植物	日本植物病理学会大会プログラム・講演要旨予稿集(平成29年度)、58
<u>佐山勝彦</u> 、中森達(北海道生物地理)	2018.01	北海道江別市におけるフタモンアシナガバチの営巣事例と生態的知見	北海道応用動物・昆虫研究発表会講演要旨集(2017)、7
<u>山中聡</u> 、 <u>佐山勝彦</u> 、稲荷尚記(森林総研PD)、佐藤重穂、尾崎研一	2018.03	トドマツ人工林での保残伐施業実証実験における伐採後の地表性甲虫類の変化	日本森林学会大会学術講演集、129:P2-224

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
佐藤重穂、 <u>佐山勝彦</u> 、尾崎研一	2018.03	北海道のトドマツ人工林とカンバ二次林におけるカミキリムシの種構成	日本森林学会大会学術講演集、129:291
佐藤重穂、稲荷尚記(森林総研北海道PD)、尾崎研一、 <u>佐山勝彦</u> 、 <u>山中聡</u>	2018.03	トドマツ人工林保残伐造林地におけるトドマツオオアブラムシと随伴アリの関係	日本生態学会大会講演要旨集、65:P3-238
<u>稲荷尚記</u> (<u>森林総研北海道PD</u>)、佐藤重穂、 <u>佐山勝彦</u> 、 <u>山中聡</u> 、尾崎研一	2018.01	トドマツ人工林における保残伐施業は林業害虫トドマツオオアブラムシ個体数の増減に影響を及ぼすか？	北海道応用動物・昆虫研究発表会講演要旨集(2017)、8
東谷宗光(エゾシカ協会)、 <u>松浦友紀子</u> 、伊吾田宏正(酪農学園大学)、赤坂猛(酪農学園大学)、宇野裕之(道総研)、早稲田宏一(EnVision)、伊吾田順平(西興部村猟区)、井田宏之(エゾシカ協会)	2017.11	「シカ捕獲認証」創設から3年間の成果	野生生物と社会学会大会講演要旨集、74
<u>松浦友紀子</u> 、東谷宗光(エゾシカ協会)、池田敬(岐阜大学)、伊吾田宏正(酪農学園大学)	2017.11	夜間銃猟に対するシカの反応ー洞爺湖中島の事例ー	野生生物と社会学会大会講演要旨集、71
<u>松浦友紀子</u> 、伊吾田宏正(酪農学園大学)、伊吾田順平(西興部村猟区)	2017.09	北海道西興部村猟区におけるエゾシカ個体群の現状	日本哺乳類学会大会プログラム・講演要旨集(2017)、179
小泉透、荒木良太(自然環境研究センター)、岡輝樹、相川拓也、青木正成(自然環境研究センター)、石田朗(愛知県森林・林業技術センター)、江口則和(新城森林総合センター)、釜田淳志(愛知県森林・林業技術センター)、川本朋慶(自然環境研究センター)、小林喬子(自然環境研究センター)、近藤洋史、佐藤那美(自然環境研究センター)、島田卓哉、高橋裕史、中下留美子、中田靖彦(自然環境研究センター)、永田純子、中西敬宏(マップクエスト)、 <u>松浦友紀子</u> 、三浦貴弘(自然環境研究センター)、諸澤崇裕(自然環境研究センター)、八代田千鶴	2018.03	拡大するシカー戦後70年の分布変化ー	日本森林学会大会学術講演集、129:107

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
小泉透、荒木良太(自然環境研究センター)、岡輝樹、相川拓也、青木正成(自然環境研究センター)、石田朗(愛知県森林・林業技術センター)、江口則和(新城森林総合センター)、釜田淳志(愛知県森林・林業技術センター)、川本朋慶(自然環境研究センター)、小林喬子(自然環境研究センター)、近藤洋史、佐藤那美(自然環境研究センター)、島田卓哉、高橋裕史、中下留美子、中田靖彦(自然環境研究センター)、永田純子、中西敬宏(マップクエスト)、 松浦友紀子 、三浦貴弘(自然環境研究センター)、諸澤崇裕(自然環境研究センター)、八代田千鶴	2017.09	戦後のシカ・イノシシの分布拡大	日本哺乳類学会大会プログラム・講演要旨集(2017)、100
松浦友紀子	2017.10	野生鳥獣をたべる	野生鳥獣をたべる
高橋裕史、 松浦友紀子 、伊吾田宏正(酪農大)、池田敬(国総研)、東谷宗光(エゾシカ協会)	2017.06	ニホンジカ低密度実現・維持に向けた課題 その2	哺乳類科学、57(1):159-160
伊吾田宏正(酪農学園大学)、 松浦友紀子 、八代田千鶴、東谷宗光(エゾシカ協会)、アンソニー・デニコラ(White Buffalo Inc.)、鈴木正嗣(岐阜大学)	2017.06	ホワイトバッファロー社における夜間シカ狙撃の訓練プログラム	哺乳類科学、57(1):103-109
池田敬(岐阜大学)、 松浦友紀子 、伊吾田宏正(酪農学園大学)、東谷宗光(エゾシカ協会)、高橋裕史	2017.06	ニホンジカの捕獲誘引地点への出没状況	哺乳類科学、57(1):45-52
松浦友紀子 、池田敬(岐阜大学)、東谷宗光(エゾシカ協会)、高橋裕史、伊吾田宏正(酪農学園大学)、浦田剛(占冠村)	2017.06	銃器を用いたシカの捕獲への赤外線サーモグラフィの適用	哺乳類科学、57(1):77-83
山中聡 、 佐山勝彦 、 稲荷尚記 (森林総研PD)、佐藤重穂、尾崎研一	2018.03	トマツ人工林での保残伐施業実証実験における伐採後の地表性甲虫類の変化	日本森林学会大会学術講演集、129:P2-224
山中聡 、埴岡雅史(元北海道大学)、中村太士(北海道大学)	2018.02	Changes in Ground Beetle and Bird Species After Farmland Abandonment(耕作放棄によるオサムシ科甲虫類と鳥類の変化)	Biodiversity conservation using umbrella species: Blakiston's Fish Owl and the Red-crowned Crane、201-213
佐藤重穂、 稲荷尚記 (森林総研北海道PD)、尾崎研一、 佐山勝彦 、 山中聡	2018.03	トマツ人工林保残伐造林地におけるトマツオオアブラムシと随伴アリの関係	日本生態学会大会講演要旨集、65:P3-238
河村和洋(北海道大学)、山浦悠一、雲野明(道立総合研究機構林業試験場)、 山中聡 、佐藤重穂	2018.03	人工林伐採地での広葉樹の保持は鳥類による害虫捕食圧を増加させるか? ダミーイモ虫を用いた検証の試み	日本生態学会大会講演要旨集、65:P3-243

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
稲荷尚記(森林総研北海道PD)、佐藤重穂、佐山勝彦、山中聡、尾崎研一	2018.01	トドマツ人工林における保残伐施業は林業害虫トドマツオオアブラムシ個体数の増減に影響を及ぼすか？	北海道応用動物・昆虫研究発表会講演要旨集(2017)、8
山中聡、赤坂卓美(帯広畜産大学)、藪原佑樹(徳島大学)、中村太士(北海道大学)	2017.09	Influence of farmland abandonment on the species composition of wetland ground beetles in Kushiro, Japan(耕作放棄地が釧路地方の湿地性オサムシ群集に及ぼす影響)	Agriculture Ecosystems and Environment、249:31-37
坂上大翼(東大北演)、古家直行	2018.03	マルチスペクトル・熱赤外センサによる樹木水分生理状態の検出特性	日本森林学会大会学術講演集、129:248
古家直行、平田泰雅、尾張敏章(東大北演)、坂上大翼(東大北演)、犬飼慎也(東大北演)、中川雄治(東大北演)、遠國正樹(東大北演)	2018.03	針広混交天然林におけるUAV空撮画像による地形モデリング	日本森林学会大会学術講演集、129:244
犬飼慎也(東大北演)、中川雄治(東大北演)、遠國正樹(東大北演)、Sadeepa Jayathunga(東大院農)、古家直行、尾張敏章(東大北演)	2018.02	低価格固定翼UAVを用いた林分現況把握の試み	北方森林研究、66:93-96
北尾光俊、原山尚徳、韓慶民、AGATHOKLEOUS Evgenios(学振PD)、上村章、古家直行、石橋聡	2018.03	冬季伐採にともなう春季の光阻害がトドマツ前生稚樹の成長に及ぼす影響	日本森林学会大会学術講演集、129:S14-4
KITAO Mitsutoshi(北尾光俊)、HARAYAMA Hisanori(原山尚徳)、HAN Qingmin(韓慶民)、AGATHOKLEOUS Evgenios(学振PD)、UEMURA Akira(上村章)、FURUYA Naoyuki(古家直行)、ISHIBASHI Satoshi(石橋聡)	2018.03	The role of springtime photoinhibition in the regeneration of Abies sachalinensis at the forest floor after removing canopy trees(上木伐採後のトドマツ前生稚樹の更新における春の光阻害の役割)	日本生態学会大会講演要旨集、65:S14-1
野田巖、HIMMAPAN Woraphun(タイ王室森林局)、古家直行、櫃間岳(国際農研)	2017.10	タイのチーク人工林に関する多項式を用いた相対幹曲線式の検討	関東森林学会大会講演要旨集、7:17(No.30)
野田巖、HIMMAPAN Woraphun(タイ王室森林局)、古家直行、櫃間岳(国際農研)	2018.03	タイ国チーク人工林にみる相対幹形の変化	日本森林学会大会学術講演集、129:251
伊藤江利子、Chann Sophal(カンボジア森林局)、Tith Bora(カンボジア森林局)、古家直行、大貫靖浩、飯田真一、清水貴範、玉井幸治、壁谷直記、八木貴信、清水晃	2018.03	落葉フタバガキ林で共存するTerminalia alataのフェノロジー異型	日本生態学会大会講演要旨集、65:P3-064
平田泰雅、古家直行、尾張敏章(東京大学)、坂上大翼(東京大学)、鎌田直人(東京大学)	2018.03	航空機レーザースカナーを用いた天然林の林分特性把握	日本森林学会大会学術講演集、129:217

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号頁)
平田泰雅、 <u>古家直行</u> 、齋藤英樹、Chealy Pak(カンボジア森林局)、Chivin Leng(カンボジア環境省)、Heng Sokh(カンボジア森林局)、Vuthy Ma(カンボジア森林局)、加治佐剛(鹿児島大学)、太田徹志(九州大学)、溝上展也(九州大学)	2018.03	Object-Based Mapping of Aboveground Biomass in Tropical Forests Using LiDAR and Very-High-Spatial-Resolution Satellite Data(LiDARと高空間分解能衛星データを用いた熱帯林における地上バイオマスのオブジェクトベースマッピング)	Remote Sensing、10(3)、44:1-21
<u>石橋聡</u> 、 <u>古家直行</u>	2018.02	大正時代末期に天然更新したトマツクサ林の推移と現況	北方森林研究、66:83-84
花岡創、 <u>古家直行</u>	2017.11	トマツクの樹冠反射スペクトルを用いた生理学的特性のクローン間変動評価の可能性	森林遺伝育種学会大会講演要旨集、6:P2
<u>ITO Eriko</u> (伊藤江利子)、Sophal Chann(カンボジア森林局)、Bora Tith(カンボジア森林局)、Samkol Keth(カンボジア森林局)、Chandararity Ly(カンボジア森林局)、Phallaphearaoth Op(カンボジア森林局)、 <u>FURUYA Naoyuki</u> (古家直行)、OHNUKI Yasuhiro(大貫靖浩)、IIDA Shin'ichi(飯田真一)、SHIMIZU Takanori(清水貴範)、TAMAI Koji(玉井幸治)、KABEYA Naoki(壁谷直記)、YAGI Takanobu(八木貴信)、SHIMIZU Akira(清水晃)	2017.08	Two phenological variants of Terminalia alata coexist in a dry dipterocarp forest(落葉フタバガキ林で共存するTerminalia alataの2つのフェノロジー異型)	Plant Species Biology、10.1111/1442-1984.12180
<u>ITO Eriko</u> (伊藤江利子)、 <u>FURUYA Naoyuki</u> (古家直行)、TORIYAMA Jumpei(鳥山淳平)、OHNUKI Yasuhiro(大貫靖浩)、KIYONO Yoshiyuki(清野嘉之)、ARAKI Makoto(荒木誠)、Heng Sokh(カンボジア森林局)、Sophal CHANN(カンボジア森林局)、Saret Khorn(カンボジア森林局)、Vanna Samreth(カンボジア森林局)、Thea So(カンボジア森林局)、Bora TITH(カンボジア森林局)、Samkol KETH(カンボジア森林局)、Chandararity LY(カンボジア森林局)、Phallaphearaoth OP(カンボジア森林局)、MONDA Yukako(門田有佳子・京都大)、KANZAKI Mamoru(神崎護・京都大)	2017.06	Stand carbon dynamics in a dry Cambodian dipterocarp forest with seasonally flooded sandy soils .(季節的に冠水する砂地土壤に生育するカンボジア乾燥フタバガキ林における林分炭素動態)	Cambodian Journal of Natural history、2017(1):109-127
<u>佐々木尚三</u>	2017.05	技術講座 羊ヶ丘の林業機械化技術ノート第12回 北海道の天然林で行われてきた択伐作業による林分被害について(その1)	機械化林業、762:31-34
<u>佐々木尚三</u>	2017.07	技術講座 羊ヶ丘の林業機械化技術ノート第13回 北海道の天然林で行われてきた択伐作業による林分被害について(その2)	機械化林業、764:31-34
<u>佐々木尚三</u>	2017.10	技術講座 羊ヶ丘の林業機械化技術ノート第14回 今後の機械化システムを考える	機械化林業、767:51-54

著者(森林総研以外の者は所属を括弧書き)	発表年月	発表表題	発表書誌情報(書誌名、巻号、頁)
<u>佐々木尚三</u>	2018.01	技術講座 羊ヶ丘の林業機械化技術ノート第15回 森林作業に利用するベースマシンの開発研究について(その1)ー全方向移動車両TTMー	機械化林業、770:31-34
<u>佐々木尚三</u>	2018.01	フィンランド・スウェーデンの林業と最新機械化事情	北の森だより、18:7
<u>佐々木尚三</u> 、 <u>山田健</u> 、宗岡寛子	2018.03	ドローンによる路網把握と集材作業効率・林地影響の検討	日本森林学会大会学術講演集、129:P1-213
<u>山田健</u> 、 <u>佐々木尚三</u> 、山口浩和、猪俣雄太、伊藤崇之(農林水産技術会議)	2018.03	津波被災海岸林再造成における植栽機械化の試み	日本森林学会大会学術講演集、129:236
<u>山田健</u> 、 <u>佐々木尚三</u> 、倉本恵生、上村章、 <u>原山尚徳</u> 、宇都木玄、斎藤丈寛(下川町)	2018.01	地拵え用クラッシャの作業性能と造林作業にもたらす効果	森林利用学会誌、33(1):67-71
倉本恵生、 <u>佐々木尚三</u> 、 <u>津山幾太郎</u> 、 <u>原山尚徳</u> 、上村章、 <u>山田健</u> 、宇都木玄、斎藤丈寛(下川町)	2018.03	北海道のカラマツ人工林伐跡における車両機地拵後の地表植生変化	日本森林学会大会学術講演集、129:219
<u>原山尚徳</u> 、上村章、 <u>北尾光俊</u> 、 <u>佐々木尚三</u> 、 <u>山田健</u> 、渡辺一郎(道総研林試)、齋藤隆実(森林総研PD)、宇都木玄	2018.03	クラッシャ地拵による下刈コスト削減効果	日本森林学会大会学術講演集、129:S1-7
<u>原山尚徳</u> 、上村章、 <u>津山幾太郎</u> 、 <u>佐々木尚三</u> 、 <u>山田健</u> 、渡辺一郎(道総研林試)、宇都木玄	2018.02	クラッシャ地拵による破碎物の量が下草繁茂に及ぼす影響	北方森林研究、66:73-76

V. 資料

1. 会議

会 議 名	開 催 日	主 催	開 催 場 所
研究所会議	年3回 (5・11・3月)	森林総合研究所 総合調整室	森林総合研究所
北海道支所運営連絡会	週1回	北海道支所	北海道支所
北海道支所運営会議	月2回	北海道支所	北海道支所
庶務課長等会議	29.11.27～11.28	森林総合研究所 総務部	森林総合研究所
企画連絡会議	29.12.6～12.7	森林総合研究所 企画部	森林総合研究所
北海道支所業務報告会	29.12.4	北海道支所	北海道支所
北海道支所研究評議会	30.2.28	北海道支所	北海道支所
研究評議会	29.11.7～8	森林総合研究所 企画部	森林総合研究所
研究推進評価会議	30.3.8	森林総合研究所 企画部	森林総合研究所

(林業研究開発推進ブロック会議)

林業研究・技術開発推進ブロック会議(北海道ブロック)	29.9.27	林野庁 北海道支所	かでの2・7(札幌市)
----------------------------	---------	--------------	-------------

(林業試験研究機関連絡協議会)

北海道林業林産試験研究機関連絡協議会情報連絡部会	29.6.9	北海道支所	北海道支所
北海道林業林産試験研究機関連絡協議会研究専門部会	29.8.9	道総研森林研究本部	道総研森林研究本部
北海道林業林産試験研究機関連絡協議会総会	29.8.23	北海道支所	道総研林業試験場

(推進会議及びプロジェクト関連会議)

交付金プロジェクト「トドマツ更新」推進評価会議	30.2.20	北海道支所	北海道支所
交付金プロジェクト「有効利用方策」研究推進評価会議	30.2.21	北海道支所	北海道支所

(林業試験研究機関連絡協議会)

北海道国有林森林・林業技術協議会	29.11.21	北海道森林管理局 北海道支所 北海道育種場 札幌水源林整備 事務所	石狩森林管理署 5180林班ち小班
------------------	----------	---	----------------------

2. 諸行事

年 月 日	行 事
29.5.13	一般公開 開催(北海道支所・北海道育種場・札幌水源林整備事務所)
29.6.6	中国林業科学院来所
29.8.30-31	LTER2017Workshop in Hokkaido
29.9.28	広島県立西条農業高校施設見学(北海道支所)
30.2.27	北海道地域研究成果発表会

3. その他の諸会議

会 議 名	開催日	主 催	出 席 者
なし			

4. 職員の研修・講習

研 修 ・ 講 習 名	期 間	主 催	受 講 者
平成29年度総合職新採用研修	29. 4. 24～28	林野庁	山中 聡
平成29年度情報公開・個人情報保護制度の運用に関する研修会	29. 6. 23	北海道管区行政評価局	佐藤 正人
平成29年度えせ同和対策連絡協議会	29. 6. 26	札幌法務局	横濱 大輔
締固め機械（ローラー）特別教育	29. 7. 12～13	キャタピラー教習所（株） 北海道教習センター	長澤 俊光
熱中症対策（管理者向け）安全教育	29. 7. 14	キャタピラー教習所（株） 北海道教習センター	横濱 大輔
熱中症対策（管理者向け）安全教育	29. 7. 14	キャタピラー教習所（株） 北海道教習センター	佐々木卓磨
有機溶剤安全教育	29. 7. 18	キャタピラー教習所（株） 北海道教習センター	土谷 直輝
丸のこ安全教育	29. 7. 20	キャタピラー教習所（株） 北海道教習センター	津山幾太郎
刈り払い機安全教育	29. 8. 7	キャタピラー教習所（株） 北海道教習センター	佐藤 重穂
刈り払い機安全教育	29. 8. 7	キャタピラー教習所（株） 北海道教習センター	山中 聡
外国語研修（英語）	29. 8. 10～12. 15	北海道支所	山中 聡
平成29年度倫理制度説明会	29. 9. 7	人事院北海道事務局	土谷 直輝
平成29年度服務・懲戒制度説明会等	29. 9. 8	人事院北海道事務局	渡邊 謙一
平成29年度訟務担当者会議	29. 10. 20	札幌法務局	横濱 大輔
平成29年度訟務担当者会議	29. 10. 20	札幌法務局	坂上 勉
平成29年度行政管理、評価、監査北海道セミナー	29. 10. 27	北海道管区行政評価局	横濱 大輔
平成29年度情報公開・個人情報保護訴訟実務連絡会	29. 11. 2	札幌法務局	横濱 大輔
平成29年度係長研修	29. 11. 14～17	人事院北海道事務局	土谷 直輝
平成29年度政策評価に関する統一研修（地方研修）	29. 12. 1	北海道管区行政評価局	室谷 邦彦
農林水産関係研究者地方研修	30. 1. 30～31	農林水産技術会議事務局	中西 敦史

5. 受託出張（78件）

用 務	日 程	依 頼 者	用 務 先	氏 名
「第8回森林土木技術講習会」講師	H29.4.21	北海道林業土木連 合協議会 代表世 話人 新谷龍一郎	札幌全日空ホテル (札幌市)	嶋瀬 拓也
SATREPS「フィールドミュージアム構想 によるアマゾン生物多様性保全プロ ジェクト」森林分野担当者打合せ会議 出席	H29.4.15～H29.4.16	京都大学野生動物 研究センター セン ター長 幸島司郎	京都大学野生動物 センター(京都市左 京区)及びメルパル ク京都(京都市下京 区)	矢部 恒晶
H29エゾシカエコツアー in spring 講 師	H29.5.12～H29.5.14	特定非営利活動法 人西興部村猟区管 理協会 会長 中 原 慎一	北海道紋別郡西興 部村猟区	松浦 友紀子
H29レブンアツモリソウ現地検討会 出席	H29.6.11～H29.6.13	北海道地方環境事 務長	礼文町鉄府レブンア ツモリサウ保護区	河原 孝行
SATREPS「フィールドミュージアム構想 によるアマゾン生物多様性保全プロ ジェクト」検討会議 出席	H29.6.12～H29.6.13	京都大学野生動物 研究センター セン ター長 幸島司郎	京都大学野生動物 センター(京都市左 京区)	矢部 恒晶
平成29年度地域森林づくり検討会 出席	H29.8.2	北海道水産林務部 長 幡宮輝雄	ニセコ町民センター	河原 孝行
H29エゾシカエコツアー in summer 講師	H29.7.15～H29.7.17	特定非営利活動法 人西興部村猟区管 理協会 会長 中 原 慎一	北海道紋別郡西興 部村猟区	松浦 友紀子
北海道森林管理局保護林管理委員会 による保護林視察	H29.7.7	北海道森林管理局 保護林管理委員会 事務局	石狩森林管理署4 8・56、江別市、北 広島市	北村 系子
第77回札幌市緑の森林審議会 出席	H29.7.18	札幌市建設局みど りの推進部	ホテルモントレー エーデルホフ札幌	関 剛
北海道森林管理局保護林管理委員会 による保護林再編案を確定するた めの現地調査	H29.7.27～H29.7.28	北海道森林管理局 保護林管理委員会 事務局	芦別市、苫小牧市、 登別市	北村 系子
北海道森林審議会 出席	H29.8.3	北海道森林審議会 会長 小泉章夫	第二水産ビル(札幌 市)	河原 孝行
北海道森林管理局保護林管理委員会 による保護林再編案を確定するた めの現地調査	H29.8.7	北海道森林管理局 保護林管理委員会 事務局	夕張市	北村 系子
平成29年度第1回国産材の安定供給 体制の構築に向けた北海道地区需給 情報連絡協議会 出席	H29.8.8	北海道地区広域原 木流通協議会 会長 高篠和憲	札幌全日空ホテル (札幌市)	嶋瀬 拓也

学位論文審査委員論文内容審査並びに論文公開審査立会 出席	H29.7.25	北海道大学大学院 環境科学院長 久保川厚	北海道大学大学院	永光 輝義
平成29年度第1回北海道環境審議会 地球温暖化対策部会 出席	H29.8.10	北海道環境審議会 地球温暖化対策部 会長 藤井 賢彦	北海道庁別館	山野井 克己
第2回コーディネーター養成研修 講師	H29.8.9～H29.8.10	北海道環境生活部 長 小玉俊宏	道総研林業試験場	松浦 友紀子
平成29年度技術開発課題現地検討会 出席	H29.9.5～H29.9.6	北海道森林管理局 長	南富良野町、旭川市	矢部 恒晶
中川町主催トークイベント 出席	H29.10.7	中川町長 川口精雄	紀伊國屋書店札幌本店	津山 幾太郎
中川町主催トークイベント 出席	H29.10.7	中川町長 川口精雄	紀伊國屋書店札幌本店	中西 敦史
平成29年度第2回北海道森林審議会 林地保全部会 出席	H29.9.28	北海道森林審議会 林地保全部会 部会長 阿部徹	北海道庁	河原 孝行
平成29年度第2回北海道環境審議会 地球温暖化対策部会 出席	H29.10.10	北海道環境審議会 地球温暖化対策部 会長 藤井賢彦	かでる2. 7(札幌市)	山野井 克己
SATREPS「フィールドミュージアム構 想によるアマゾン生物多様性保全プロ ジェクト」検討会議 出席	H29.9.19～H29.9.20	京都大学野生動物 研究センター センター長 辛島司 郎	京都大学野生動物 センター(京都市左 京区)	矢部 恒晶
「2017年高性能林業機械実機研修 会」講師	H29.9.1.14	高性能林業機械実 機研究会事務局 東日本コベルコ建 機株式会社北海道 支社長 玉井正浩	北海道勇払郡厚真 町胆振管区100林 班(厚真ダム)	原山 尚徳
「2017年高性能林業機械実機研修 会」講師	H29.9.1.15	高性能林業機械実 機研究会事務局 東日本コベルコ建 機株式会社北海道 支社長 玉井正浩	北海道勇払郡厚真 町胆振管区100林 班(厚真ダム)	佐々木 尚三
平成29年度「持続可能な森林経営の ための政策立案能力の強化研修」講師	H29.9.18～H29.9.19	林野庁森林技術総 合研修所長	JICA東京(東京都 渋谷区)	古家 直行
「人口減少、気候変動下におけるグ リーンインフラー生物多様性・防災・ 社会的価値評価」に係る現地視察及 び意見交換	H29.9.15～H29.9.17	北海道大学大学院 農学研究院院長 横田 篤	阿南市海岸マツ林 (徳島県阿南市)	山中 聡
平成29年度宗谷流域森林・林業活性 化協議会「海岸防災林の施業に関す る部会」及び現地検討会 出席	H29.9.11～H29.9.12	宗谷流域森林・林 業活性化協議会 宗谷森林管理署長 青木正伸	浜頓別役場、国有 林1097林班、民有 林、57林班海岸防 災林	関 剛

「平成29年度森林総合監理士等技術者活動支援事業」実践研修 講師	H29.9.18～H29.9.20	一般社団法人 全国林業改良普及協会 会長 西場信行	北海道森林管理局	石橋 聡
第1回西別湿原ヤチカンバ群落地保護対策検討委員会 出席	H29.9.1～H29.9.2	別海町教育委員会 会長 伊藤多加志	別海町役場	永光 輝義
若手研究者の外部専門家によるレビュー	H29.11.27～H29.11.28	国立大学法人 東京農工大学大学院 農学研究院長 千葉一裕	東京農工大学府中キャンパス	北尾 光俊
平成29年度小笠原希少植物保護増殖事業検討会 出席	H29.12.10～H29.12.11	環境省関東地方環境事務所 環境事務所長	環境省関東地方環境事務所(埼玉県大宮市)	河原 孝行
SATREPS「フィールドミュージアム構想によるアマゾン生物多様性保全プロジェクト」検討会議 出席	H29.12.4～H29.12.5	京都大学野生動物研究センター センター長 幸島司郎	京都大学野生動物センター(京都市左京区)	矢部 恒晶
環境研究総合推進費(4-1504)に係る現地視察及びアドバイザー会合 出席	H29.12.2～H29.12.3	北海道大学大学院 農学研究院長 横田 篤	麻機遊水地(静岡県静岡市)及び環境再生保全機構(東京都千代田区)	山中 聡
新人ハンターセミナー(基礎編) 講師	H29.11.24～H29.11.25	特定非営利活動法人 西興部村猟区管理協会 会長 中原 慎一	北海道紋別郡西興部村猟区	松浦 友紀子
平成29年度第1回北海道森林管理局保護林管理委員会 出席	H29.11.15	北海道森林管理局 保護林管理委員会事務局	北海道森林管理局	河原 孝行
平成29年度第1回北海道森林管理局保護林管理委員会 出席	H29.11.15	北海道森林管理局 保護林管理委員会事務局	北海道森林管理局	北村 系子
平成29年度国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構短期集合研修「数理統計(基礎編・応用編)」講師	H29.11.16～H29.11.17	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 理事長 井邊時雄	農林水産技術会議 筑波産学連携支援センター(茨城県つくば市)	伊東 宏樹
平成29年度第2回国産材の安定供給体制の構築に向けた北海道地区需給情報連絡協議会 出席	H29.11.13	北海道地区広域原木流通協議会 会長 高篠 和憲	札幌全日空ホテル(札幌市)	嶋瀬 拓也
第78回札幌市緑の森林審議会 出席	H29.11.14	札幌市建設局みどりの推進部	ホテルモントレー エーデルホフ札幌	関 剛
平成29年度道内林業技術研修会 講師	H29.10.26	北海道水源林造林協議会 会長 池部 彰	第二水産ビル(札幌市)	延廣 竜彦
第1回北海道産広葉樹の利用可能性調査検討委員会 出席	H29.12.25	北海道森林管理局 長	北海道森林管理局	石橋 聡
第1回北海道産広葉樹の利用可能性調査検討委員会 出席	H29.12.25	北海道森林管理局 長	北海道森林管理局	嶋瀬 拓也

平成29年度モニタリングサイト1000陸生鳥類調査検討会 出席	H29.12.19～H29.12.20	環境省自然環境局 生物多様性センター長	大崎第一区民集会所(東京都品川区)	佐藤 重穂
北海道森林ボランティア協会冬期セミナー 講演	H29.12.13	NPO法人 北海道 森林ボランティア協会 理事長 横山 清	札幌エルプラザ	山口 岳広
北海道森林審議会 出席	H29.12.18	北海道森林審議会 会長 小泉 章夫	第二水産ビル(札幌市)	河原 孝行
第79回札幌市緑の森林審議会 出席	H30.1.15	札幌市建設局みどりの推進部	札幌市役所	関 剛
”フィールドミュージアム”構想によるアマゾンの生物多様性保全プロジェクトにおける森林調査および研修プログラム作成に向けた準備会議	H30.1.13～H30.1.14	京都大学野生動物 研究センター教授 辛島 司郎	京都大学東京オフィス(東京都千代田区)	矢部 恒晶
認定鳥獣捕獲等事業者育成講習会 講師	H30.1.31	北海道環境生活部長 小玉 俊宏	かでる2.7(札幌市)	松浦 友紀子
第26回野幌自然環境モニタリング検討会 出席	H30.2.9	北海道森林管理局 長	野幌森林公園自然ふれあい交流館	平川 浩文
釧路・根室地方森林・林業・林産業活性化を促進するための連絡会議 講演	H30.2.12～2.13	釧路根林活連絡会議 長 大澤 友厚	釧路工業技術センター	佐々木 尚三
学生実習における銃器を使用した専門的な野生鳥獣捕獲実習、衛生管理手法に基づくエゾシカ解体実習、安全管理実習、ビームライフル実習 講師	H30.2.14～H30.2.18	学校法人酪農学園 酪農学園大学農食 環境学群環境共生 学類 学類長 吉 田剛司	北海道紋別郡西興部村内	松浦 友紀子
平成29年度野生獣衛生体制整備推進確立対策事業に係る研修会 講師	H30.3.1～H30.3.2	公益財団法人 千葉県畜産協会 会長 森 英介	ホテルプラザ菜の花(千葉県千葉市)	松浦 友紀子

6. 外国出張(12件)

用 務	日 程	経費負担先	行 先	氏 名
「外生菌接種によるカラマツコンテナ苗の環境ストレス耐性向上に関する研究」に関連する研究成果を国際会議 The 3rd International Conference on Enviromental Pollution and healthniにおいて研究発表	29. 5. 12 ～ 29. 5. 15	科学研究費補助金	中国	北尾 光俊
「苗木植栽ロボットの開発・実証」課題のための、海外育林機械・育林作業システムの調査及び育林機械研究者との協議	29. 6. 6 ～ 29. 6. 15	農林水産省受託事業費	スウェーデン、フィンランド	山田 健
「苗木植栽ロボットの開発・実証」課題のための、海外育林機械・育林作業システムの調査と育林機械研究者との協議	29. 6. 6 ～ 29. 6. 15	農林水産省受託事業費	スウェーデン、フィンランド	佐々木 尚三
EABCNの活動に関する参加機関会議 生物多様性保全現地検討会 (DingShushan自然保護区)	29. 7. 20 ～ 29. 7. 23	韓国国立樹木園	中国	河原 孝行
「国際植物学会 (IBC)2017での東アジア生物多様性保全ネットワークに関するシンポジウム」における講演	29. 7. 24 ～ 29. 7. 24	国立ソウル大学国際環境協力センター	中国	津山 幾太郎
「イギリスにおける野生獣肉衛生管理の制度」に関する現地調査	29. 10. 8 ～ 29. 10. 15	酪農学園大学	イギリス	松浦 友紀子
リモートセンシングによるチーク林分材積推定に係る調査	29. 11. 16 ～ 29. 11. 26	(国研) 国際農林水産業研究センター	タイ	古家 直行
京都大学野生動物研究センターの要請による「フィールドミュージアム構想によるアマゾンの生物多様性保全プロジェクト」推進に係る現地調査およびプロジェクト推進検討会議	29. 12. 8 ～ 29. 12. 23	京都大学野生動物研究センター	ブラジル	矢部 恒晶
「ベイズ統計によるトラップの捕獲効率を考慮した森林性昆虫群集の生息密度推定」に関する現地視察	30. 1. 17 ～ 30. 1. 24	科学研究費補助金	オーストラリア	山中 聡
リモートセンシングによるチーク林分材積推定に係る調査	30. 2. 8 ～ 30. 2. 19	(国研) 国際農林水産業研究センター	タイ	古家 直行
国際連合食糧農業機関 (FAO) 主催の「FRA(森林資源評価)2020の立ち上げ技術会合」への参加	30. 3. 4 ～ 30. 3. 11	運営費交付金	メキシコ	古家 直行
京都大学野生動物研究センターの要請による「フィールドミュージアム構想によるアマゾンの生物多様性保全プロジェクト」推進に係る現地調査および現地学生研修準備	30. 3. 10 ～ 30. 3. 27	京都大学野生動物研究センター	ブラジル	矢部 恒晶

7. 研修生の受入

① 受託研修生(0名)

氏 名	所 属	研 修 期 間	研 修 内 容	受 入 担 当
な し				

② 海外研修生(0名)

研修名:JICA集団研修「地域住民の参加による持続的な森林管理」コース	
日程:29.10.13	
(国 名)	(人 数)
エチオピア	1
フィジー	2
インド	1
ケニア	3
マラウイ	1
ミャンマー	2
パプアニューギニア	1
ソロモン	1
スーダン	1
トルコ	1
ベネズエラ	1
ベトナム	1

8. 来訪者

①支所視察・見学・利用

来訪日	来訪者	人数	目的	担当者
29. 5. 10	さわやかノルディック・ウォーク倶楽部	20	ノルディックウォーキング	地域連携推進室
29. 5. 10	NPO法人 北広島森林ボランティア メイプル	20	施設見学	地域連携推進室
29. 5. 23	株式会社フォテク	11	北海道の樹木・木材の見学	地域連携推進室
29. 6. 9	札幌科学技術専門学校	9	環境調査実習	地域連携推進室
29. 7. 5～7. 7	鳴門教育大学大学院学校教育研究科	1	昆虫類の試料採集	森林生物研究グループ
29. 7. 9	西岡地区町内会連合会	60	ノルディックウォーキング	地域連携推進室
29. 7. 21	西岡二区中央町内会	20	ノルディックウォーキング	地域連携推進室
29. 9. 5	高知県森林インストラクター会	2	植物標本の作成	地域連携推進室
29. 9. 5	豊平公園緑のセンター	5	標本館他見学	地域連携推進室

②実験林利用者

利用期間	利用者	人数	目的
29. 4. 1～11. 19	川路則友 他	3	森林性鳥類の繁殖生態調査および鳥類標識調査
29. 4. 1～30. 3. 31	(独)北海道農業研究センター	1	羊ヶ丘に隣接する大都市札幌の境界層の発達を画像（スモッグや雲の形成等）により捕捉
29. 5. 15～17	北海道大学低温科学研究所	1	エゾヤマザクラの開花が枝の伸長に与える影響の評価
29. 6. 26～8. 10	北海道大学農学部	4	都市マトリクスと騒音が景観の透過性に与える影響
29. 9. 7～10. 9	札幌キノコの会第六支部	15	きのこの採集
29. 10. 26	札幌科学技術専門学校	15	環境調査実習
29. 10. 6～30. 3. 31	東海大学生物学部生物学科	7	シジュウカラ等の森林性鳥類の巣箱を用いた繁殖生態調査

③標本館来館者数

	一 般	学 生	国	都道府県	林業団体	総研職員	外国	計
4 月	60	9	8	0	0	0	0	77
5 月	328	6	3	0	0	0	0	337
6 月	141	3	0	5	0	11	4	164
7 月	79	7	0	0	0	0	0	86
8 月	79	23	0	0	0	1	8	111
9 月	184	18	2	0	0	0	19	223
1 0 月	233	9	0	0	0	0	1	243
1 1 月	116	130	0	1	0	1	0	248
1 2 月	23	1	0	0	0	0	0	24
1 月	29	1	6	0	0	2	0	38
2 月	27	0	0	0	0	4	0	31
3 月	29	16	0	0	0	0	0	45
合 計	1328	223	19	6	0	19	32	1627

9. 広報活動

①新聞等

内 容 等	掲載日	社 名
新ひだか町静内の二十間道路桜並木で大発生したハバチについて	29. 10. 10	北海道新聞 (静内支局)
レブンアツモリソウの現状及び希少化の要因について	30. 1. 26	日本経済新聞社

②テレビ放送

内 容 等	放送日	局 名
イチオシ！「スズメバチに関する取材」	29. 7. 13	北海道テレビ
どさんこワイド179「スズメバチに関する取材」	29. 8. 16	札幌テレビ
イチオシ！「スズメバチに関する取材」	29. 9. 11	北海道テレビ
NHK WORLD テレビ「Wild Hokkaido !」 「羊ヶ丘の森」に関する取材	29. 10. 16	NHK

③定期刊行物

内 容 等	ISSN	発行日	発行部数
平成29年版北海道支所年報	2187-8730	31.2	オンライン
北の森だよりVol. 18	1882-9627	30.2.28	1,100
平成29年度北海道地域研究成果発表会 発表集 ・「森林・林業・林産業の現在と未来」 1. 島嶼ブナ北限奥尻島集団の遺伝的多様性と分化 2. アオダモの持続的利用に向けた育種からの取り組み 3. 森林資源と木材市場から見通す北海道林業・木材産業の将来方向 基調講演「最近の木材利用に関する課題と森林総研の取り組み」をきいて			
北の森だよりVol. 19	1882-9627	30.3.30	1,100
着任のご挨拶 北海道支所長 河原孝行 現地検討会・講演会報告 ・「先進造林機械による再造林技術 検討会」開催報告 ・造林作業の低コスト化 ・造林作業の機械化 ・フィンランド・スウェーデンの林業と最新機械化事情 活動報告 ・平成29年度北海道地域一般公開を開催 ・第8回北海道国有林森林・林業技術協議会 現地検討会を開催			

10. 図書刊行物の収数

区 分	和 書			洋 書			合 計
	購 入	寄 贈	計	購 入	寄 贈	計	
単行書	9冊	32冊	41冊	0冊	0冊	0冊	41冊
逐次刊行物	46誌	192誌	238誌	14誌	6誌	20誌	258誌

11.固定試験地・収穫試験地

①固定試験地

区分:A 森林総研主体、A' 森林総研・道局共同、B 道局からの依頼

整理番号	試験地名	研究項目	森林管理署	林小班	樹種	面積 ha	設定 年度	終了予 定年度	調査 年度	距離 km	担当研究グループ	区 分
札幌 4	苫小牧植生調査試験地	林冠破壊による植生の変化 (風害後の遷移)	胆振東部	1301、いー 3 1463、い	トドマツ アカエゾマ ツ エゾマツ ダケカンバ	1.67 18.74	32	H30	不定期	97.6	森林育成研究グループ	A
札幌 7	札幌カラマツ産地試験地	カラマツ産地試験	石狩	41、な・ね	カラマツ	5.84	34	H31	不定期	28.9	森林育成研究グループ	A
札幌16	利根別トドマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	空知	41、は	トドマツ	0.9	36	H33	10年毎	49.6	北方林管理研究グループ	A
札幌17	万字カラマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	空知	18、ろ	カラマツ	1.1	41	H46	5年毎	75.1	北方林管理研究グループ	A
札幌32	ヤチダモ人工林の構造と生長試験地 (3)(4)	長伐期林分情報の整備方式の開発の予 測	石狩	41、は-20 33	ヤチダモ	1.14 1.13	30 25	H47	5年毎	29.9	北方林管理研究グループ	A
札幌51	札幌トドマツ産地試験地	トドマツ産地試験	石狩	58、ぬ 64、た	トドマツ	3.94	42	H29	不定期	39.4	森林育成研究グループ	A
札幌54	空沼天然林施業試験地(1)(2)	トドマツ・エゾマツ天然林の生長予測	石狩	1128、は い-1 と 1129、れ ほ へ	トドマツ エゾマツ 広葉樹	2.16 0.99	43 44	H30	5年毎	24.6	北方林管理研究グループ	A
札幌61	苫小牧広葉樹試験地	落葉広葉樹林の更新	胆振東部	1205、い	広葉樹類	43.37	50	H31	不定期	80	森林育成研究グループ	A'
旭川 1	枝幸カラマツ産地試験地	カラマツ産地試験	宗谷	6、い	カラマツ	5	34	H32	不定期	403.9	森林育成研究グループ	A
旭川 2	大雪植生調査試験地	林冠破壊による植生の変化 (風害後の遷移)	上川中部	260、ろ 276、い 290、い・ろ 320、い・ろ	未立木	1.5	31	H30	不定期	248.4	森林育成研究グループ	A
旭川 3	林冠破壊による土壌の変化試験地	森林伐採に伴う設置環境変動と堆積腐植 分解との関係	上川中部	260、ろ 276、い 290、い・ろ 320、い・ろ	未立木	1.5	31	H30	不定期	248.4	植物土壌系研究グループ	B
旭川 5	雄信内トドマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	留萌北部	50、い	トドマツ	0.56	38	H47	10年毎	329.4	北方林管理研究グループ	A
旭川 8	上川トドマツ産地試験地	トドマツ産地試験	上川中部	141、い	トドマツ	4.47	42	H29	不定期	201.4	森林育成研究グループ	A
旭川 9	浜頓別トドマツ産地試験地	トドマツ産地試験	宗谷	1010、ろ・ は	トドマツ	9.02	42	H29	不定期	400.8	森林育成研究グループ	A
旭川11	大雪原生林植物群落落保護林調査試験地	原生林の更新動態	上川中部	254 260	トドマツ アカエゾマ ツ エゾマツ	2	H11	定めず	不定期	248.4	森林育成研究グループ	A
旭川12	士別天然林成長量固定試験地	トドマツ・エゾマツ天然林の成長予測	上川北部	397、い	トドマツ エゾマツ	3.26	H13	定めず	5年毎		北方林管理研究グループ	A
旭川13	幾寅天然林成長量固定試験地	トドマツ・エゾマツ天然林の成長予測	上川南部	141、ろ	トドマツ エゾマツ	4	H13	定めず	5年毎		北方林管理研究グループ	A
北見 4	エゾマツ・トドマツ天然生林固定標準地	林分成長量の推定及び予測手法に関す る研究	網走中部	1041、い	エゾマツ トドマツ 広葉樹	1.96	33	H30	5年毎		北方林管理研究グループ	A
北見 6	丸瀬布カラマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	網走西部	1108、う	カラマツ	1.09	42	H46	5年毎	266.5	北方林管理研究グループ	A
北見 7	佐呂間トドマツ産地試験地	トドマツ産地試験	網走中部	90、む	トドマツ	4.53	42	H29	不定期	335.4	森林育成研究グループ	A
北見 8	津別天然林成長量固定試験地	トドマツ・エゾマツ天然林の成長予測	網走南部	2205、ろ	トドマツ エゾマツ	2.08	H15	定めず	5年毎		北方林管理研究グループ	A
帯広 2	清水カラマツ産地試験地	カラマツ産地試験	十勝西部	15、い	カラマツ	4.67	35	H32	不定期	240.9	森林育成研究グループ	A
帯広 4	ベケレトドマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	根釧西部	77、ろ	トドマツ	1	40	H38	10年毎	482.3	北方林管理研究グループ	A
帯広 9	根室トドマツ産地試験地	トドマツ産地試験	根釧東部	1024、い	トドマツ	4.32	44	H29	不定期	500	森林育成研究グループ	A
帯広10	弟子屈天然林成長試験地	トドマツ・エゾマツ天然林の成長予測	根釧西部	47、い	トドマツ エゾマツ	8	H15	H34	5年毎		北方林管理研究グループ	A
函館 8	函館トドマツ産地試験地	トドマツ産地試験	檜山	130、へ と ち	トドマツ	4.43	42	H29	不定期	319.3	森林育成研究グループ	A

②収穫試験地

整理番号	試験地名	研究項目	森林管理署	林小班	樹種	面積 ha	設定 年度	終了予 定年度	調査 年度	担当研究グループ	区 分
札幌16	利根別トドマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	空知	41、は	トドマツ	0.9	S36	H33	10年毎	北方林管理研究グループ	A
札幌17	万字カラマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	空知	18、ろ	カラマツ	1.1	S41	H46	5年毎	北方林管理研究グループ	A
旭川 5	雄信内トドマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	留萌北部	50、い	トドマツ	0.56	S38	H47	10年毎	北方林管理研究グループ	A
北見 6	丸瀬布カラマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	網走西部	1108、う	カラマツ	1.09	S42	H46	5年毎	北方林管理研究グループ	A
帯広 4	ベケレトドマツ人工林収穫試験地	長伐期林分情報の整備方式の開発	根釧西部	77、ろ	トドマツ	1	S40	H38	10年毎	北方林管理研究グループ	A

12. 羊ヶ丘実験林の試験林一覧

No.	試験林名	試験項目	林班	樹種	年度	面積 ha	担当
1	針葉樹病害試験林	病害発生情報の収集・解析 と突発性病害発生生態の解 明	1-に	トドマツ他	S48	0.55	森林生物研究 グループ
2	野鳥誘致林	キツツキ類の営巣穴の消失 過程の解析及び動態把握	1-へ	ナナカマ ド他	S48	0.62	森林生物研究 グループ
3	特用樹試験林	成長調査	1-と	キササゲ 他	S50	0.61	業務係
4	針・広葉樹造成試験林	成長調査	1-ち	イチイ他	H元	0.50	業務係
5	群落構成試験林	北方系天然林における成長 及び更新動態の長期モニタ リング	2-は～よ	ハイマツ 他	S48	10.43	森林育成研究 グループ
6	針葉樹人工林試験林	成長調査	3-に、 5-へ～ち、 5-ぬ、 6-と	グイマツ 他	S48	4.95	業務係
7	針葉樹腐朽病害試験 林	立木の腐朽・変色を起こす 菌類の生態および宿主との 相互作用の解明	3-ほ	カラマツ	H3	0.97	森林生物研究 グループ
8	広葉樹人工林試験林	成長調査	3-へ、 3-ち～る、 4-ろ、 5-り、 7-に	ミズナラ 他	S48	6.31	業務係
9	広葉樹人工林試験林	北方林構成樹種の養分の 配分・利用特性	3-と	ウダ ^イ カンバ ^ハ	S49	0.94	植物土壌系研究 グループ
10	土壌環境長期モニタリ ング試験林	北方林の立地特性と物質循 環モデル	4-へ	ト ^マ マツ他	S48	1.62	植物土壌系研究 グループ
11	昆虫多様性試験林	昆虫発生情報の収集と解析	4-と	ト ^マ マツ他	S48	3.21	森林生物研究 グループ
12	虫害解析試験林	昆虫発生情報の収集と解析	4-ち	ト ^マ マツ他	S48	2.00	森林生物研究 グループ
13	生態遷移試験林	森林の更新を制御する因子 としてのササの動態及びそ の被覆の影響の評価	5-ろ、 6-ろ、 6-ほ	ヤマナラシ 他	S53	21.19	森林育成研究 グループ
14	森林気象試験林	北方系落葉広葉樹林の二 酸化炭素動態のモニタリン グ	5-ろ、 6-い～ へ、 8-い ～ろ	ヤマナラシ 他	H6	57.13	寒地環境保全 研究グループ
15	植栽密度試験林	密度管理技術に基づく長伐 期林分の成長・収穫予測の 高度化	5-に	アカエゾ ^マ マツ 他	S48	5.77	北方林管理研究 グループ
16	鳥獣生態調査試験林	キツツキ類の営巣穴の消失 過程の解析及び動態把握	6-い、へ	シラカンバ ^ハ 他	H5	14.96	森林生物研究 グループ
17	広葉樹用材林施業試 験林	天然林における択伐施業計 画法の改善	6-は～に	シラカンバ ^ハ 他	S53	6.31	北方林管理研究 グループ
18	針広混交林造成試験 林	樹種の環境適応性の生理 的特性の解明と評価	7-い～ろ	シラカンバ ^ハ 他	S50	14.95	植物土壌系研究 グループ
19	ウダイカンバ植栽試験 林	成長調査	8-は	ウダ ^イ カンバ ^ハ	S62	1.93	業務係

1.3. 羊ヶ丘の気象

○試験研究の資料として、昭和48年から北海道支所羊ヶ丘観測露場において、気象観測を実施している。

平成29年度の気象概要は以下のとおりである。

1. 今年度は、平均気温7.2℃で平年並みであった。最高気温は7月14日に記録した32.8℃であり、真夏日に相当する30℃を超える日は4日あった。
また最低気温は2月7日に記録した-16.2℃であり、真冬日に相当する最高気温が氷点下の日数は65日であった。
2. 目視による初雪は10月23日で、30年3月までに積雪した雪は、4月21日に積雪ゼロとなった。

平成29年度の羊ヶ丘観測露場における観測値は、次表のとおりである。

平成29年度 気象年報

北緯 42度59分42秒
東経 141度23分26秒
標高 146.5m

1. 気温 (℃)

月	平均	最高平均	最低平均	極値最高	起日時	極値最低	起日時
H29. 4	5.7	10.9	0.6	17.9	15 15:53	-4.5	1 5:29
5	12.6	18.8	7.2	26.3	19 13:20	2.6	8 21:34
6	14.2	19.8	9.4	27.3	30 16:48	4.8	13 3:23
7	21.1	26.8	16.6	32.8	14 13:42	14.2	26 3:44
8	19.5	24.4	15.7	28.5	23 14:15	9.4	30 4:17
9	15.6	21.2	11.3	25.7	8 12:40	5.2	28 23:10
10	9.2	14.0	4.8	20.5	1 12:28	-0.5	19 5:55
11	2.4	6.7	-2.0	16.8	7 12:09	-9.6	20 3:25
12	-4.1	-0.4	-8.0	7.6	25 3:36	-11.3	9 4:26
H30. 1	-4.6	-0.8	-8.6	5.4	9 13:49	-15.1	29 23:39
2	-6.2	-1.5	-11.0	4.1	23 13:45	-16.2	7 4:47
3	0.6	4.9	-4.3	13.7	31 13:09	-12.4	7 3:04
年	7.2	12.1	2.6	32.8	7/14 13:42	-16.2	2/7 4:47
極値				35.7	1994/8/7 14:10	-22.8	1978/2/17 3:25

2. 降水量 (mm)

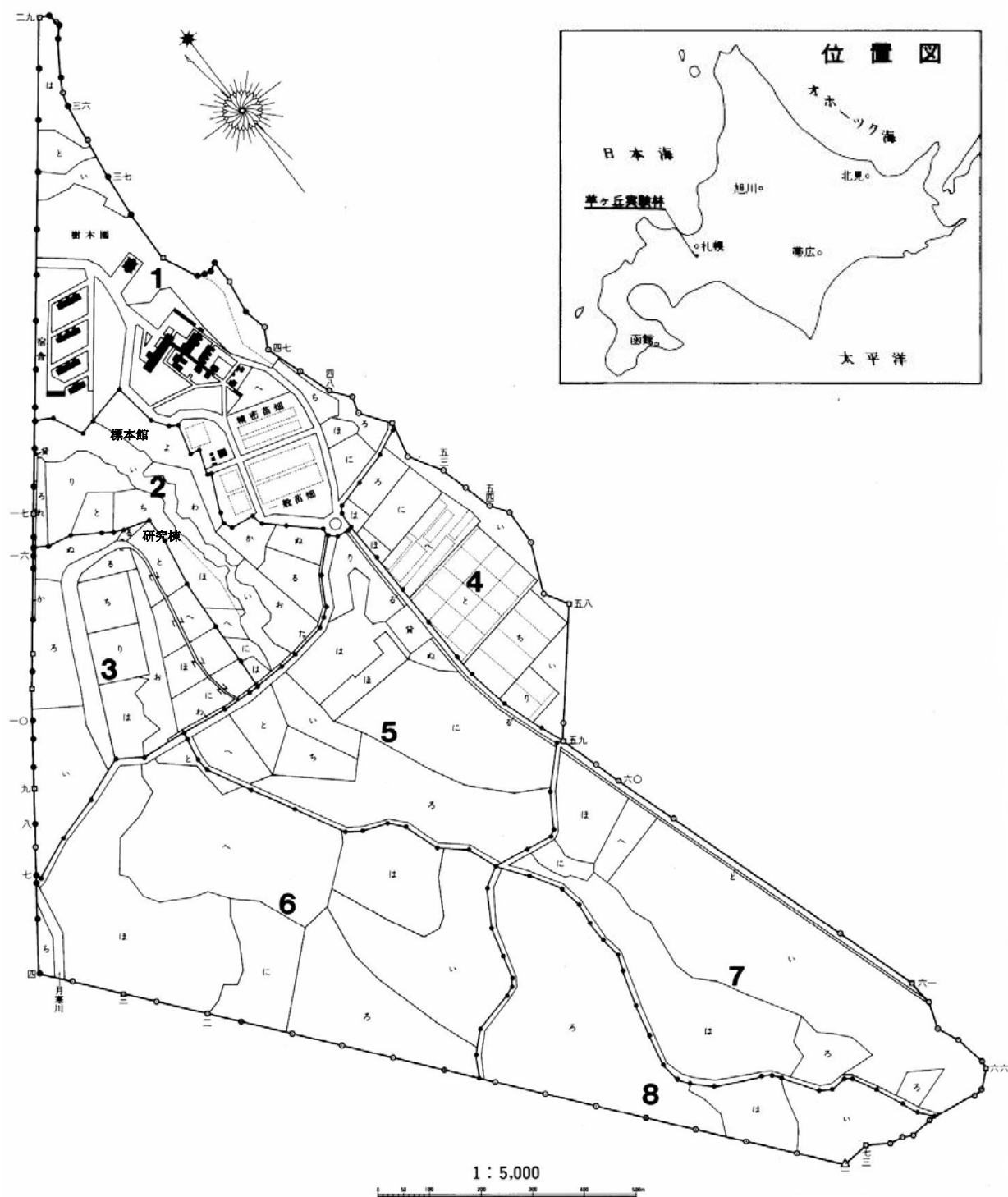
3. 積雪 (cm) (×: 欠測値)

月	総 量	最大日量	起 日	最 大 1 時 間 量	起 日	最大 積雪深	起 日
H29. 4	57.5	34.5	18	7.0	18	0.72	1
5	59.0	33.0	27	4.5	27	-	-
6	174.5	51.0	22	11.5	21	-	-
7	66.0	23.5	16	18.5	16	-	-
8	89.0	46.5	22	16.5	22	-	-
9	222.0	74.5	18	20.0	23	-	-
10	95.5	31.0	30	7.0	29	0.08	23
11	112.0	23.5	18	5.5	9	0.98	9
12	54.0	14.5	11	6.0	11	0.38	8
H30. 1	56.5	9.5	1	3.0	12	0.65	26
2	18.5	4.0	17	3.0	17	0.73	19
3	114.5	33.0	1	7.0	9	1.07	2
年	1,119.0	74.5	9/18	20.0	9/23	1.07	3/2
最大値の記録							
年降水量		最大日降水量		最大1時間降水量		最大積雪深	
最大	1,490.0 (1981)	220.5		51.0		150	
最小	572.0 (2008)	1981/8/23		1979/10/4 3:00		2013/3/11	

4. 風速 (m/sec)

月	平均	最大	風向	起日	最大瞬間	風向	起日
H29. 4	2.0	7.8	S	8	19.9	SSE	30
5	1.6	6.4	S	15	17.6	S	15
6	1.2	6.0	SSE	8	14.5	S	8
7	1.1	5.5	S	21	13.6	SSW	21
8	1.2	5.3	S	22	12.2	SSE	22
9	1.2	5.1	S	17	13.6	S	23
10	1.4	5.8	NNW	30	18.3	N	30
11	1.4	6.3	S	28	18.5	WSW	11
12	1.1	6.4	S	25	17.2	S	25
H30. 1	1.2	5.1	S	15	13.1	SW	10
2	1.2	5.7	S	23	13.8	N	18
3	1.7	5.8	SSE	8	17.4	NNW	9
年	1.4	7.8	S	4/8	19.9	SSE	4/30

○羊ヶ丘実験林基本図



VI. 総務

1. 沿革

1908 年（明41）	6月	北海道庁告示第361号によって、江別村大字野幌志文別に内務省野幌林業試験場が設立された。
1927 年（昭 2）	9月	庁舎を江別町西野幌に新築し、移転した。
1933 年（昭 8）	1月	北海道林業試験場と改められた。試験部（育林、利用、科学、保護、気象）、庶務部（庶務、会計、売買）。
1936 年（昭11）	10月	木材利用部新設。森林標本館が設置される。 10月7日に昭和天皇陛下が行幸され、本場並びに付属試験林を見学された。
1937 年（昭12）	10月	上川森林治水保安試験所が開設された。
1939 年（昭14）	8月	釧路混牧林業試験所が開設された。
1940 年（昭15）	1月	帝室林野局北海道林業試験場が札幌市豊平に設立された。
1945 年（昭20）	8月	野幌試験林の管理経営を札幌営林署に移管。
1947 年（昭22）	5月	林政統一により帝室林野局北海道林業試験場と北海道庁所管の北海道林業試験場を合併、林業試験場札幌支場と改められた。
1950 年（昭25）	4月 7月 12月	上川、釧路両試験所が、それぞれ試験地と名称が変わる。 札幌営林局付属「森林有害動物調査所」が札幌支場の野鼠研究室になる。 木材利用部門は、本場に集中される。
1951 年（昭26）	7月	支場を札幌市におき、分室を西野幌におく（経営部、造林部、保護部、庶務課）
1953 年（昭28）	10月	野幌の試験設備をすべて札幌市豊平に統合し、北海道支場と改めた。 野幌試験地が開設された。
1954 年（昭29）		経営部に牧野研究室新設、調査室が庶務課から分離（昭22新設）、造林部種子研究室が育種研究室に名称変更。
1955 年（昭30）		保護部病理昆虫研究室が昆虫、樹病研究室に分離増。
1961 年（昭36）	5月 11月	千歳国営林において植樹祭が行われる。昭和天皇・皇后陛下が支場に行幸された。 所期の目的が達せられたので、上川試験地は廃止された。
1965 年（昭40）	4月 9月	経営部牧野研究室が営農林牧野研究室に名称変更。 所期の目的が達せられたので、釧路試験地は廃止された。
1967 年（昭42）	6月	会計課が新設された。
1968 年（昭43）	10月	創立 6 0 周年となり、祝典を行う。
1969 年（昭44）	4月	造林部造林研究室が造林第 1、造林第 2 研究室に分離増。
1970 年（昭45）	5月	経営部防災研究室が治山、防災研究室に分離増。
1972 年（昭47）	5月	羊ヶ丘への移転計画で実験林設置が決定したため、組織上の野幌試験地は廃止された。 調査室から実験林室が分離増。
1974 年（昭49）	10月	庁舎が札幌市豊平区豊平から同市豊平区羊ヶ丘へ移転し、施設の新築、整備が行われた。
1975 年（昭50）	4月	保護部野鼠研究室が鳥獣研究室に名称変更。
1976 年（昭51）	3月 5月	羊ヶ丘における施設整備を完了した。 造林部の名称を育林部に変更。
1978 年（昭53）	10月	創立 7 0 周年となり、一般公開及び祝典を行う。
1981 年（昭56）	4月	育林部育種研究室、を遺伝育種研究室に名称変更。
1988 年（昭63）	10月 10月	農林水産省組織規程の一部改正により森林総合研究所北海道支所に改組された。育林部造林第 1 研究室、造林第 2 研究室はそれぞれ樹木生理研究室、造林研究室となり、経営部経営研究室、営農林牧野研究室はそれぞれ天然林管理研究室、経営研究室となった。また経営部治山研究室と防災研究室は統合減となり、防災研究室となった。 創立 8 0 周年となり、記念植樹を行う。
1998 年（平10）	10月	創立 9 0 周年となり、一般公開及び祝典を行う。
2001 年（平13）	4月	独立行政法人森林総合研究所北海道支所となり、組織が変更となった。部制、会計課及び研究室が廃止され、研究調整官、地域研究官、庶務課長補佐、5 チーム長、5 研究グループ（森林育成・植物土壌系・寒地環境保全・森林生物・北方林管理）が新設された。
2006 年（平18）	4月	実験林室を連絡調整室へ統合し、業務係を新設した。
2007 年（平19）	4月	庶務課職員厚生係を庶務係へ統合した。
2008 年（平20）	10月	創立 1 0 0 周年となり、記念植樹及び式典を行った。
2010 年（平22）	10月	育種調整監を新設した。
2011 年（平23）	4月	研究調整監を産学官連携推進調整監に名称変更。
2011 年（平23）	9月	11日、札幌市内にて開催の「国際微生物学連合 2 0 1 1 会議」ご臨席のためご来道された天皇陛下が、当所標本館をご視察なさる。
2015 年（平27）	4月	独立行政法人の 3 分類により、国立研究開発法人となった。
2016 年（平28）	4月	産学官連携推進調整監を産学官民連携推進調整監に、連絡調整室を地域連携推進室に名称変更。
2017 年（平29）	4月	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所北海道支所となった。
2018 年（平30）	4月	庶務課が総務課に名称が変更された。
2018 年（平30）	10月	創立 1 1 0 周年となり、記念植樹及び式典を行った。

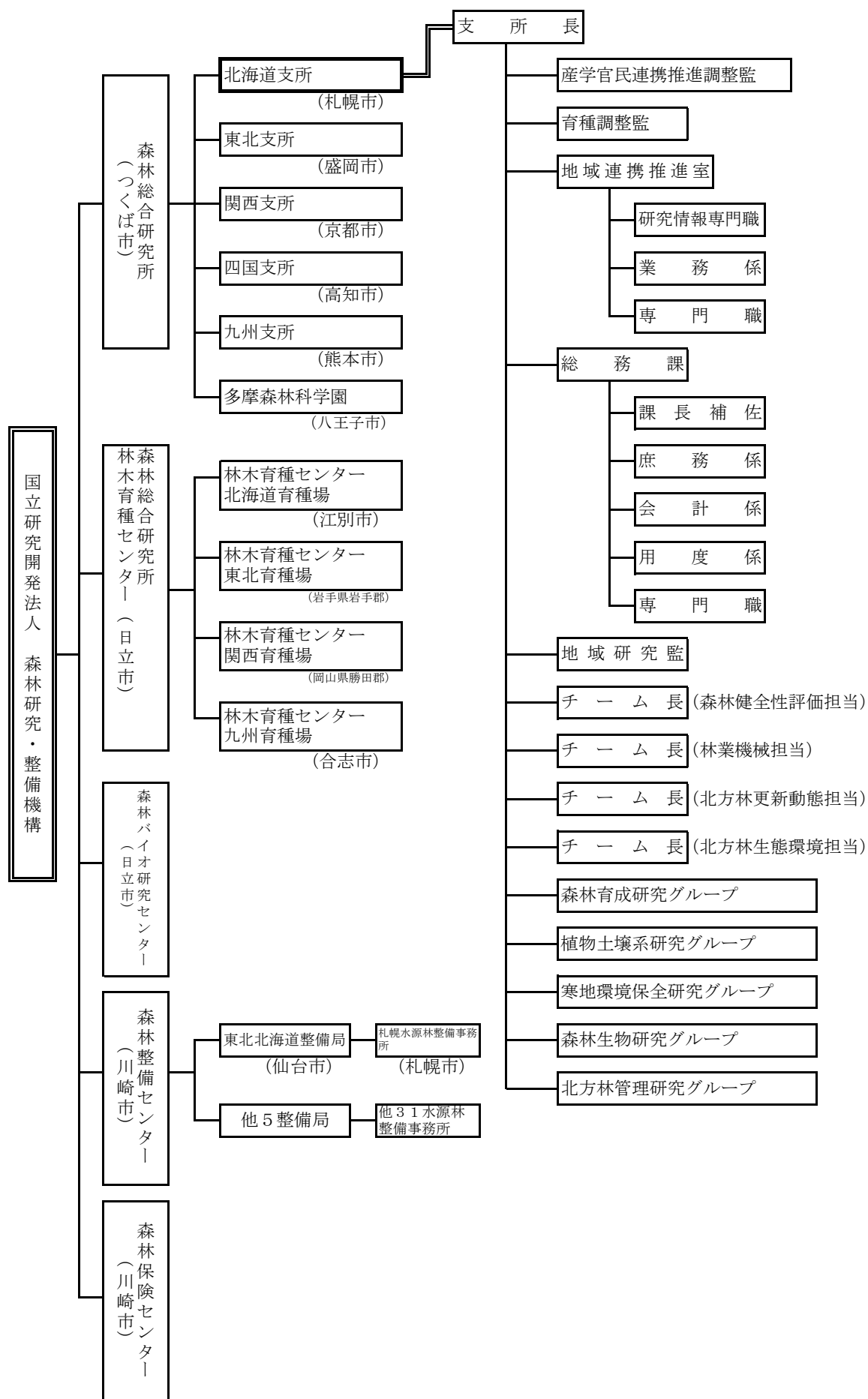
2. 土地・施設

○敷地・建物面積

(単位：㎡)

区 分	土 地 ・ 建 物		備 考
	構 造	面 積	
土 地		1,721,394	
建物敷地		55,668	
樹木園		62,900	
苗畑		38,590	
試験林ほか		1,564,236	
建 物 (延)		7,655	
研究本館	R C - 3	3,893	昭和49年8月10日 建築
特殊実験室	R C - 1	848	昭和48年4月1日 建築
生物環境調節実験施設	R C - 1	377	昭和49年10月12日 建築
野兎生態実験室	R C - 1	142	昭和48年4月1日 建築
鳥類屋外実験室	R C - 1	56	昭和49年10月12日 建築
温室	R - 1	300	昭和49年10月12日 建築
樹病隔離温室	R - 1	135	昭和49年10月12日 建築
日長処理施設	R - 1	129	昭和49年10月12日 建築
苗畑調査実験室	R C - 2	345	昭和48年4月1日 建築
鳥獣飼育場	R - 1	222	平成15年12月18日 建築
標本館	R C - 1	392	昭和49年10月12日 建築
その他		816	

3. 組織（平成30年4月1日現在）



4. 職員の異動（平成29年4月2日～平成30年4月1日）

○採用

発令月日	氏 名	新所属	旧所属
30.4.1	辰巳 晋一	北方林管理研究グループ	

○採用（再雇用）

発令月日	氏 名	新所属	旧所属
30.4.1	坂上 勉	地域連携推進室・総務課	

○所内異動

発令月日	氏 名	新所属	旧所属
29.7.1	佐藤 正人	地域連携推進室研究情報専門職	地域連携推進室専門職
29.7.1	土谷 直輝	庶務課会計係長	庶務課専門職
30.4.1	室谷 邦彦	総務課長	地域連携推進室長
30.4.1	石橋 靖幸	森林生物研究グループ長	チーム長（野生動物管理担当）
30.4.1	古家 直行	北方林管理研究グループ長	北方林管理研究グループ主任研究員

○転入

発令月日	氏 名	新所属	旧所属
30.4.1	小野 英樹	地域連携推進室長	森林総合研究所 総務部職員課給与係長
30.4.1	坂場 良	総務課課長補佐	森林総合研究所 総務部経理課予算係長
30.4.1	梅村 光俊	植物土壌系研究グループ	森林総合研究所森林研究部門 立地環境領域植物土壌資源研究室

○転出

発令月日	氏 名	新所属	旧所属
30.4.1	渡邊 謙一	東北支所総務課長	庶務課課長補佐
30.4.1	佐藤 重穂	四国支所チーム長	森林生物研究グループ長

○退職（定年）

発令月日	氏 名	新所属	旧所属
30.3.31	坂上 勉		庶務課長

○退職（出向）

発令月日	氏 名	新所属	旧所属
29.6.30	神田 光紀	横浜植物防疫所札幌支所 会計係長	庶務課会計係長
30.3.31	嶋瀬 拓也	林野庁森林整備部研究指導課 首席研究企画官	北方林管理研究グループ長

5. 職員名簿（平成30年4月1日現在）

支所長	研究職	河原 孝行			
産学官民連携推進調整監	研究職	矢部 恒晶	森林育成研究グループ長	研究職	永光 輝義
育種調整監（併任）	一般職	宿利 一弥	主任研究員	〃	北村 系子
（林木育種センター北海道育種場長）			〃	〃	関 剛
			〃	〃	津山幾太郎
地域連携推進室長	一般職	小野 英樹	〃	〃	中西 敦史
地域連携推進室付	〃	山本 健一			
研究情報専門職	〃	佐藤 正人	植物土壌系研究グループ長	研究職	北尾 光俊
専門職	〃	寺田 絵里	主任研究員	〃	上村 章
〃	〃	長澤 俊光	〃	〃	伊藤江利子
業務係長	〃	佐々木卓磨	〃	〃	原山 尚徳
再雇用	研究専門員	平川 浩文	研究員	〃	梅村 光俊
再雇用（併任）	研究専門員	伊藤 賢介			
再雇用（併任）	一般専門員	坂上 勉	寒地環境保全研究グループ長	研究職	山野井克己
			主任研究員	〃	溝口 康子
総務課長	一般職	室谷 邦彦	〃	〃	延廣 竜彦
課長補佐	〃	坂場 良			
庶務係長	〃	横濱 大輔	森林生物研究グループ長	研究職	石橋 靖幸
再雇用（併任）	一般専門員	坂上 勉	主任研究員	〃	石原 誠
会計係長	〃	土谷 直輝	〃	〃	佐山 勝彦
用度係長	〃	内山 拓	〃	〃	松浦友紀子
専門職	〃	吉田 厚	研究員	〃	山中 聡
再雇用	一般専門員	近藤 洋美	再雇用（併任）	研究専門員	伊藤 賢介
地域研究監	研究職	石橋 聡	北方林管理研究グループ長	研究職	古家 直行
チーム長	研究職	山口 岳広	研究員	〃	辰巳 晋一
（森林健全性評価担当）			再雇用	研究専門員	佐々木尚三
チーム長	〃	山田 健			
（林業機械担当）					
チーム長	〃	伊東 宏樹			
（北方林更新動態担当）				研究職	27 名
チーム長	〃	橋本 徹		一般職	13 名
（北方林生態環境担当）				再雇用（一）	2 名
				再雇用（研）	3 名

6. 事業予算額

(1) 事業予算額

(単位：千円)

事業科目名		予算額
事業費		36,045
一般研究費		23,675
	アア／北海道	173
	アイ／北海道	593
	アウ／北海道	2,025
	イア／北海道	3,363
	イイ／北海道	945
	エア／北海道	559
	連携推進費	1,642
	機械整備費	14,375
特別研究費		11,670
	交プロ／北海道	11,670
基盤事業費		700
	基盤／北海道	700
政府等受託事業費		1,545
農林水産省受託事業費		1,545
	農林水産技術会議事務局受託事業	1,200
	林野庁受託事業	345
政府外受託事業費		7,086
	特殊法人等受託事業費	5,060
	特殊法人等受託事業費（委託元政府外）	2,026
所内委託プロ		600
科学研究費補助金		25,817
寄付金事業		3,199
農林水産省補助事業		4,306
研究管理費		43,411
一般管理費		51,836
施設整備費補助金		72,842
合	計	246,687

(2) 収入契約

(単位：千円)

事業科目名	予算額
事業収入	
調査等依頼収入	215
事業外収入	
資産貸付収入	55
合	計
	270

2019 年 2 月発行

平成 30 年版 森林総合研究所北海道支所年報

編集・発行

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所北海道支所
(担当：地域連携推進室)

〒062-8516 北海道札幌市豊平区羊ヶ丘 7 番地

TEL(011)851-4131 FAX(011)851-4167

URL <http://www.ffpri.affrc.go.jp/hkd>

本誌から転載・複写する場合は、森林総合研究所北海道支所の許可を得てください。

表紙写真：羊ヶ丘実験林内のアオジ（撮影：川路則友）